

海の道むなかた館長

## 第4回 対馬国

西谷 正

### I はじめに

倭人伝に見える対馬国

### II 対馬国以前

- (1) 稲作の始まり — 縄文時代終末期 (弥生時代早期)
- (2) 対馬国の成立 — 弥生時代中期後半



### III 対馬国の遺跡と遺物

- (1) 峰町三根・下ガヤノキ遺跡
- (2) 峰町佐賀・エーガ崎遺跡
- (3) 峰町佐賀・小姓島遺跡
- (4) 豊玉町佐保・シゲノダン遺跡、唐崎遺跡
- (5) 豊玉町仁位・ハロウ遺跡
- (6) 上県町佐護・クビル遺跡
- (7) 上対馬町古里・塔ノ首遺跡
- (8) 美津島町久須保浦・かがり松鼻遺跡
- (9) 峰町三根遺跡山辺区

### IV 対馬国以後

美津島町鶏知・出居塚

### V 船と航海

### VI おわりに

南北市糴の対馬国



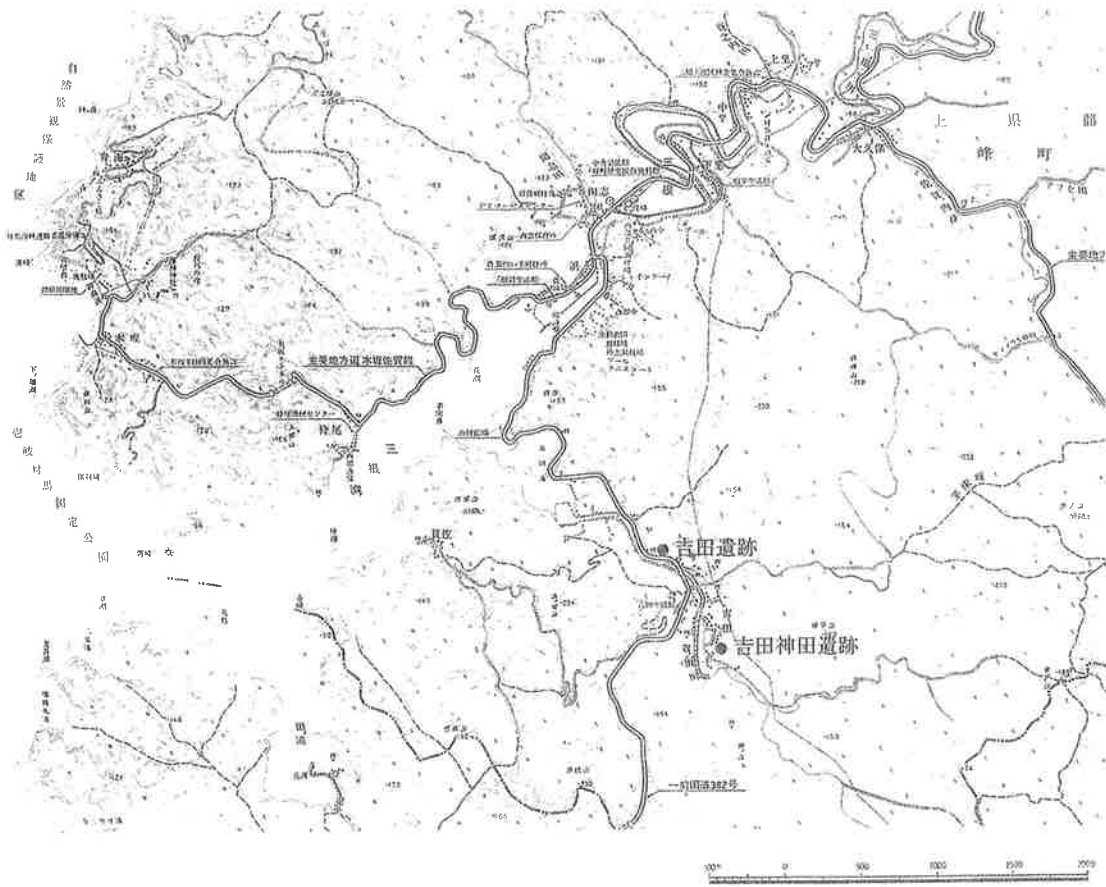
始度一海千餘里至對海國其大  
 官曰卑狗副曰卑奴母離所居絕島方可四百餘  
 里土地山險多深林道路如禽鹿徑有千餘戶無  
 良田食海物自活乘船南北市糶



- |    |        |    |              |    |          |
|----|--------|----|--------------|----|----------|
| 一  | 經限遺跡   | 二〇 | サカドウ遺跡       | 三九 | ヌカシ遺跡    |
| 二  | 泉遺跡    | 二一 | 木坂遺跡         | 四〇 | 加志々遺跡    |
| 三  | 古里遺跡   | 二二 | ガヤノキ遺跡       | 四一 | 西加藤遺跡    |
| 四  | 塔の首遺跡  | 二三 | タカマツノダン遺跡    | 四二 | スス浦崎遺跡   |
| 五  | コフノ採遺跡 | 二四 | チゴノハナ遺跡      | 四三 | 貝鮒崎古墳    |
| 六  | 朝日山遺跡  | 二五 | 蒙古塚(トウトゴ山)遺跡 | 四四 | 海落第四遺跡   |
| 七  | 芦見遺跡   | 二六 | 吉田遺跡         | 四五 | 箕島遺跡     |
| 八  | クビル遺跡  | 二七 | 恵比須山遺跡       | 四六 | 島山赤崎遺跡   |
| 九  | 佐護白岳遺跡 | 二八 | 住吉平貝塚        | 四七 | 玉調浦五次郎遺跡 |
| 一〇 | 大將軍山古墳 | 二九 | 観音鼻遺跡        | 四八 | かがり松鼻遺跡  |
| 一一 | 志多留貝塚  | 三〇 | クワバル古墳       | 四九 | 菜畑南遺跡    |
| 一二 | 越高遺跡   | 三一 | シゲノダン遺跡      | 五〇 | 金田城跡     |
| 一三 | 越高尾崎遺跡 | 三二 | ソウダイ遺跡       | 五一 | 中道壇遺跡    |
| 一四 | 夫婦石遺跡  | 三三 | イノ採遺跡        | 五二 | 出居塚古墳    |
| 一五 | 椎ノ浦遺跡  | 三四 | 唐崎遺跡         | 五三 | 根曾古墳群    |
| 一六 | 佐賀貝塚   | 三五 | 佐保浦赤崎遺跡      | 五四 | 矢立山古墳    |
| 一七 | 小姓島遺跡  | 三六 | ハロウ遺跡        | 五五 | 保床山古墳    |
| 一八 | エーガ崎遺跡 | 三七 | 東の浜遺跡        | 五六 | オテカタ遺跡   |
| 一九 | 井手遺跡   | 三八 | 貝口赤崎遺跡       |    |          |

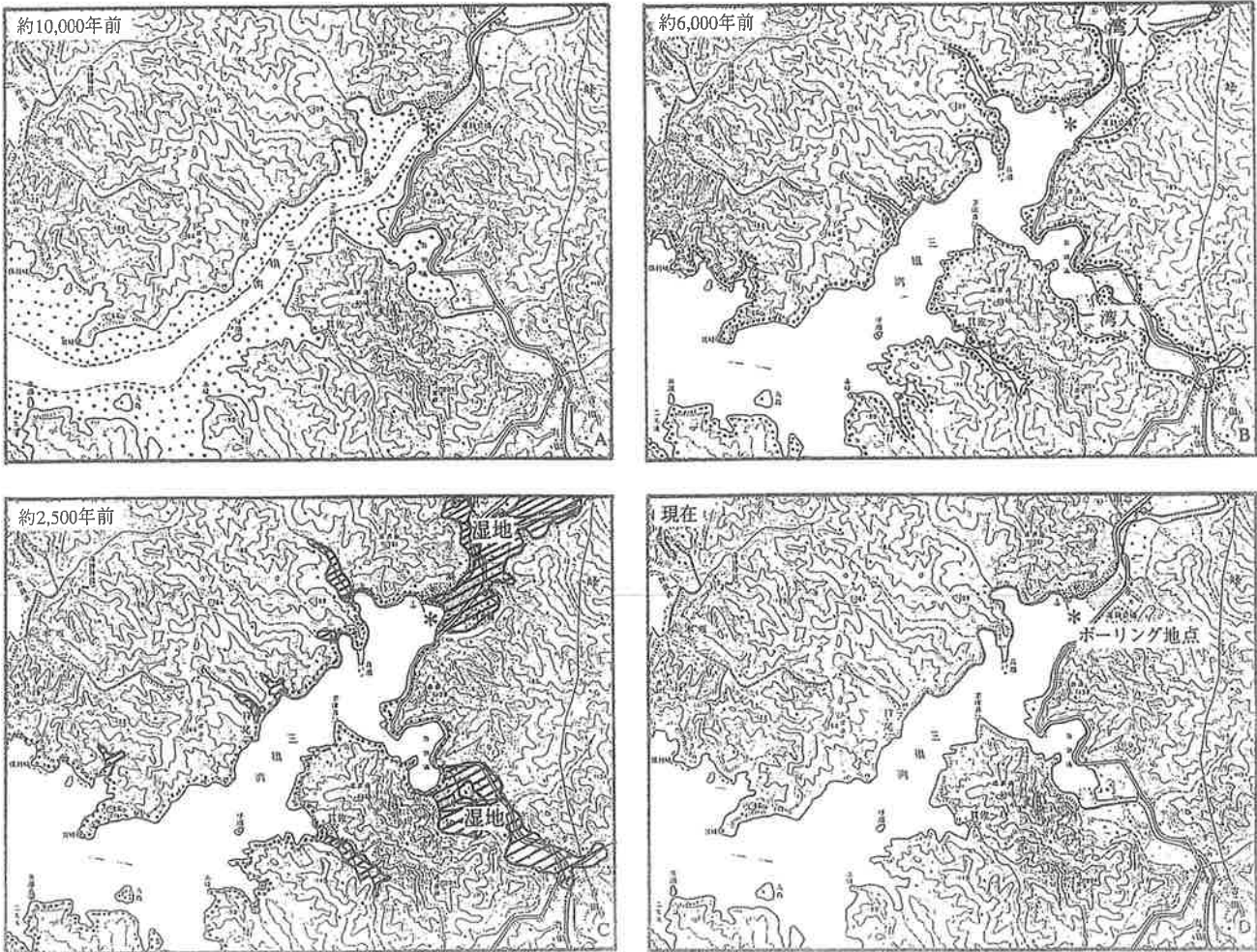
長崎県教育委員会, 1996 『原始・古代の長崎県』資料編 I

遺跡の発掘調査——九州大学大学院人文科学研究科  
 九州大学考古学研究室、二〇〇四年 対馬吉田遺跡——縄文時代

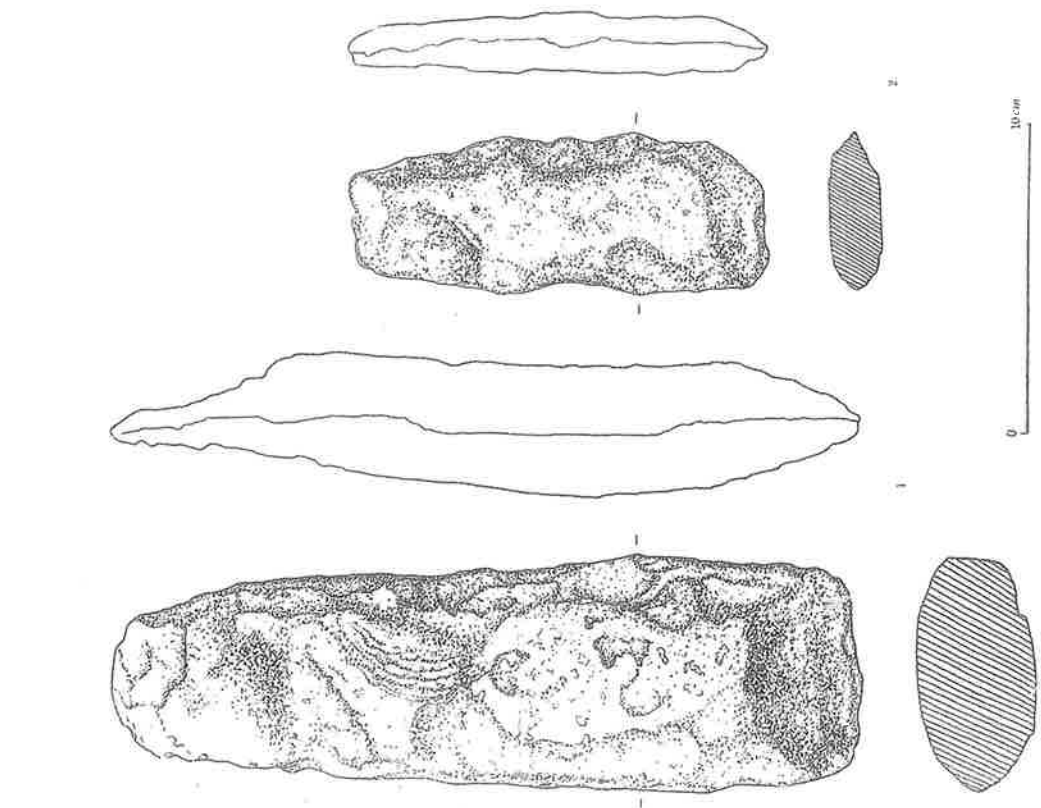


吉田遺跡と吉田神田遺跡の位置

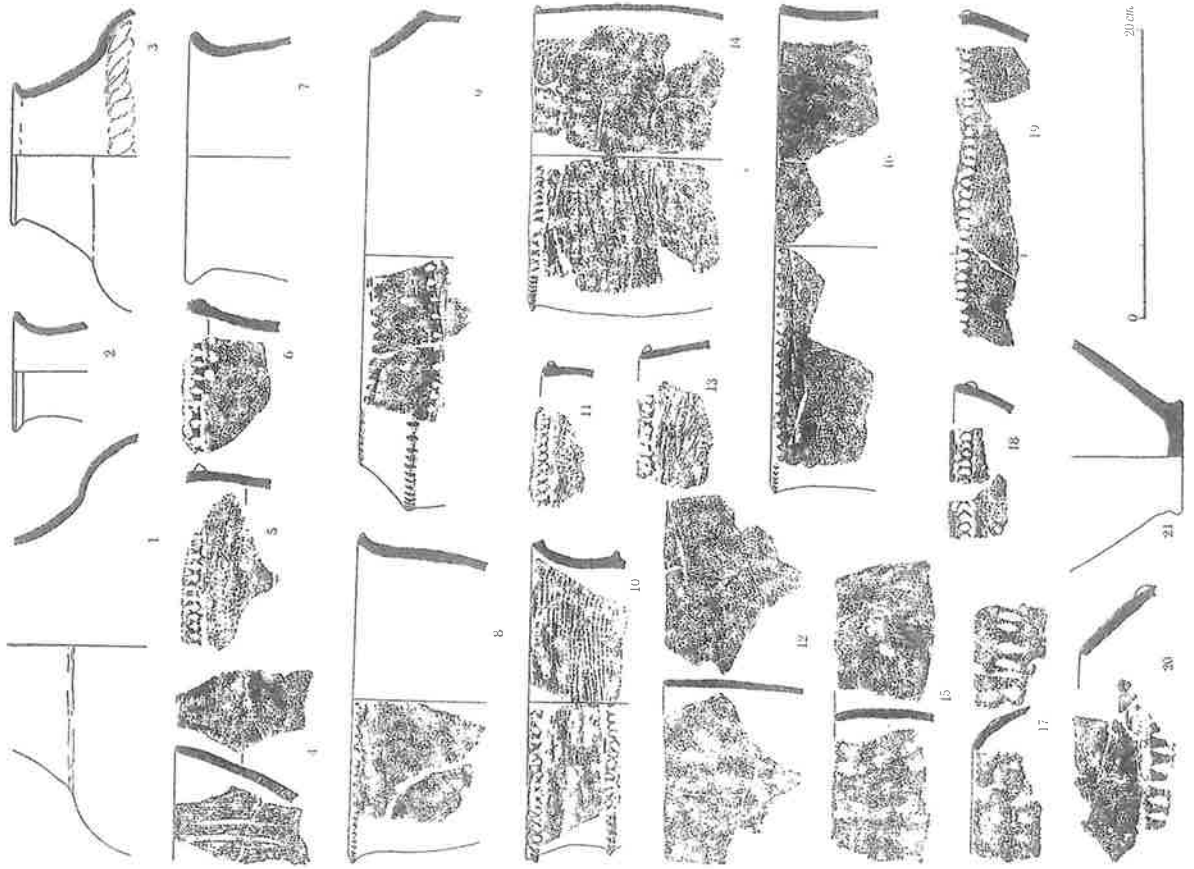
対馬・三根湾周辺における完新世以降の環境変遷(原図は国土地理院発行、1/25,000地形図「三根」)



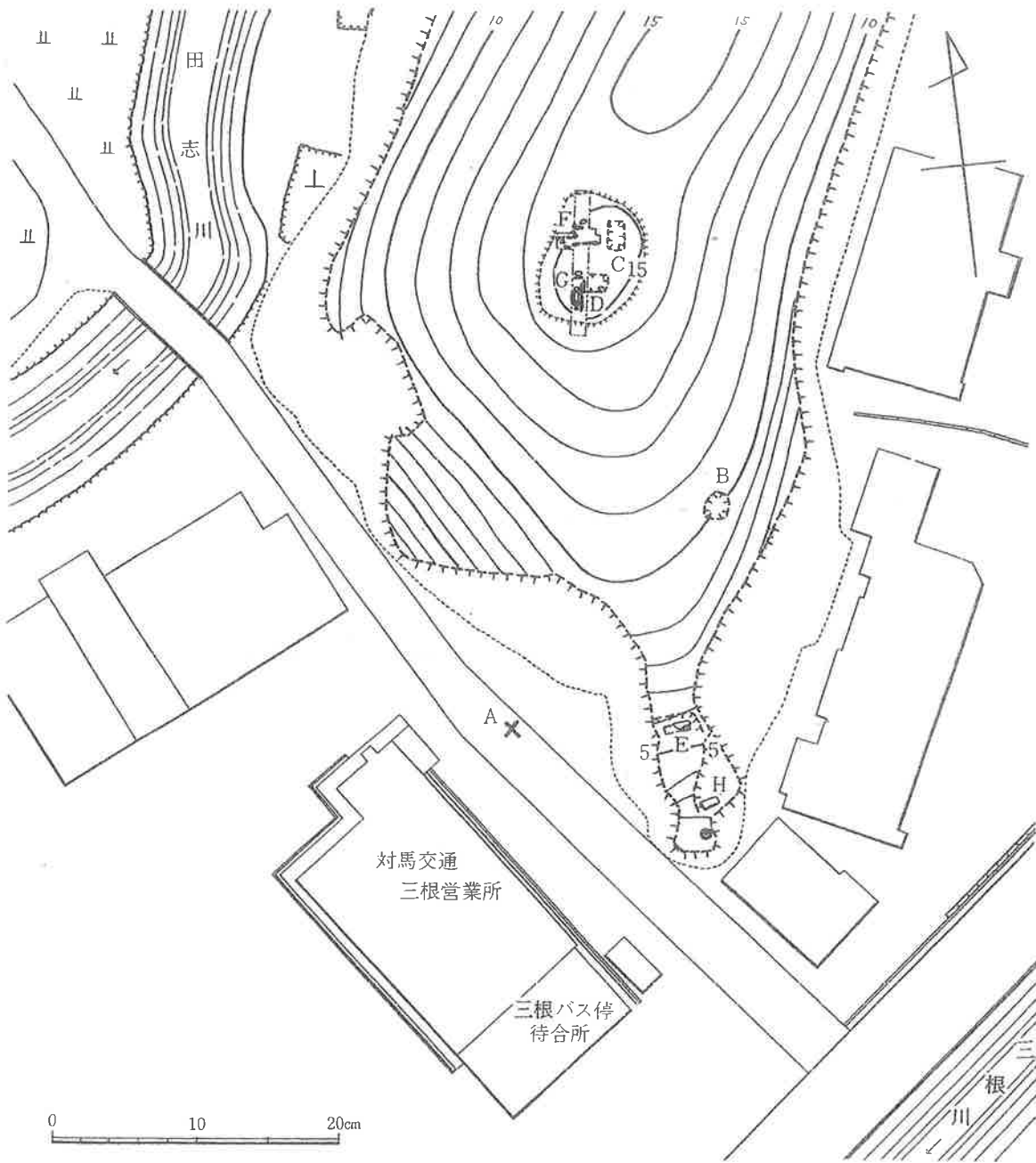
和岡敬亮 1994 「東シナ海沿岸の環境変遷」『日本文化の民族移動』思文閣出版



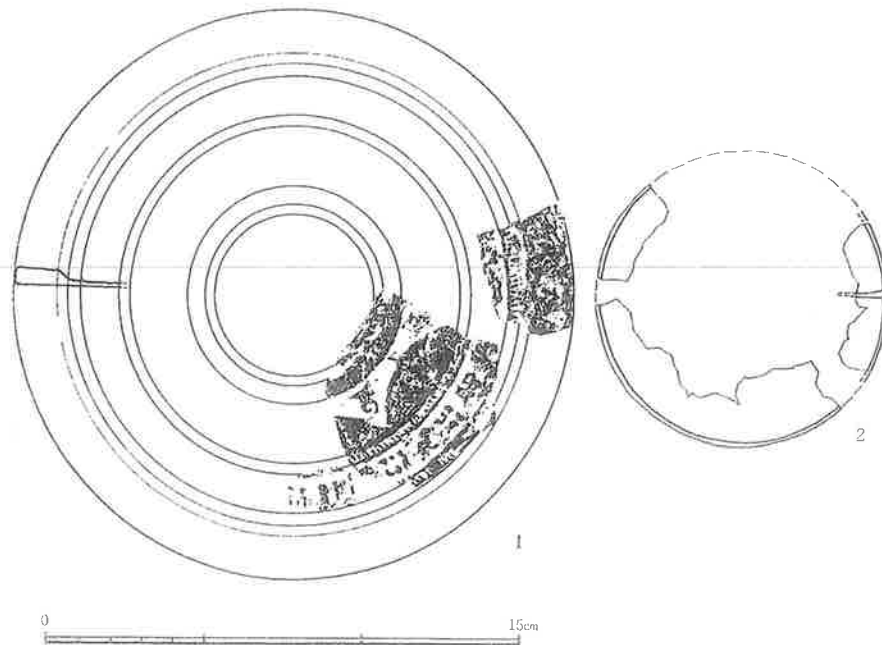
第2図 吉田遺跡出土石器実測図



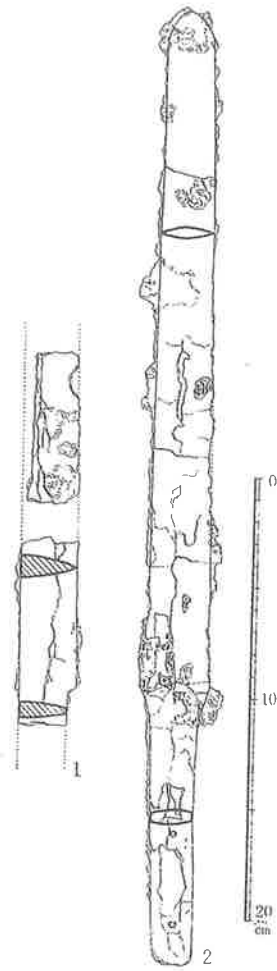
第1図 吉田遺跡出土石器実測図



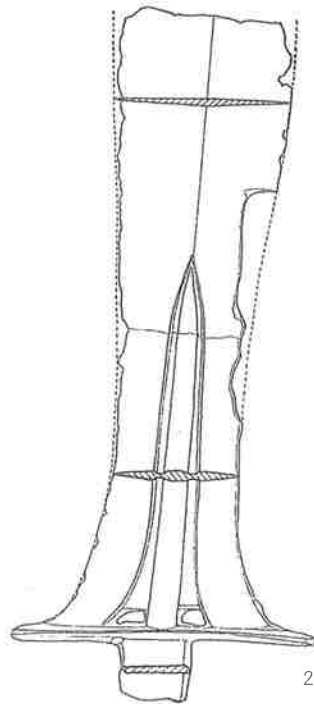
下ガヤノキ遺跡地形実測図



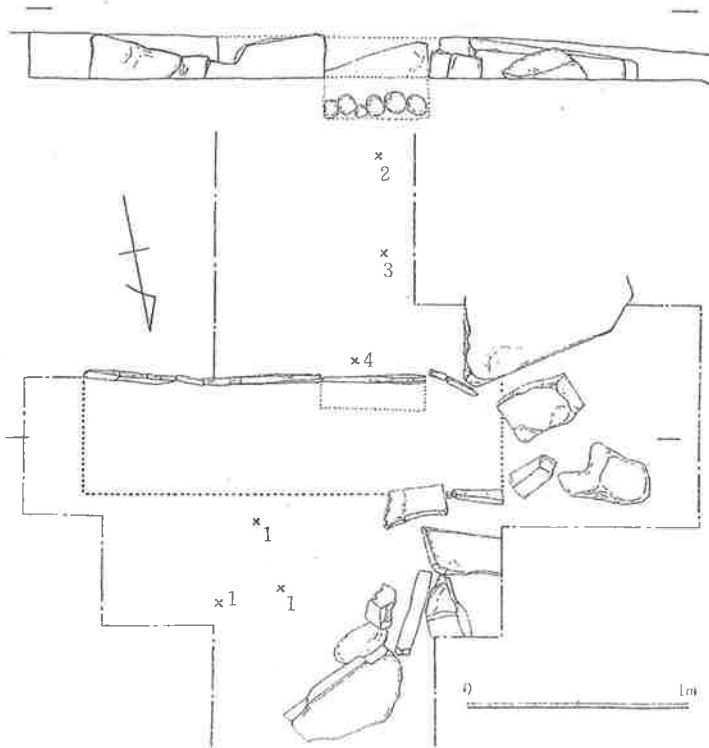
下ガヤノキF地点石棺附近出土鏡復原図及び実測図



下ガヤノキF地点石棺外出土鉄剣，鉄刀実測図



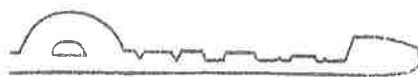
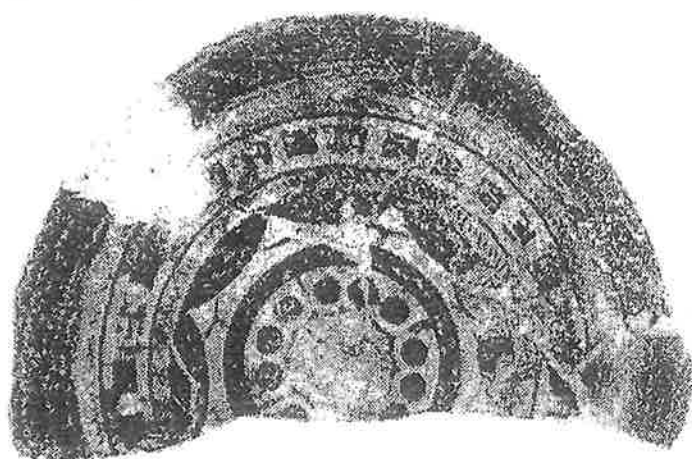
下ガヤノキA地点出土銅矛，銅戈実測図



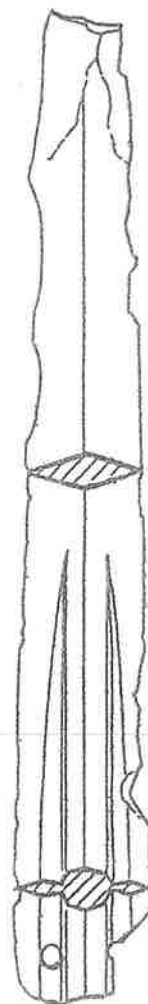
下ガヤノキF地点石棺実測図

九州大学文学部考古学研究室，  
1974『対馬—浅茅湾とその周辺  
の考古学調査—』『長崎県文化財  
調査報告書』第17集，長崎県教  
育委員会

工一方崎遺跡 上県郡峰町佐賀字内田ノ浦



出土遺物

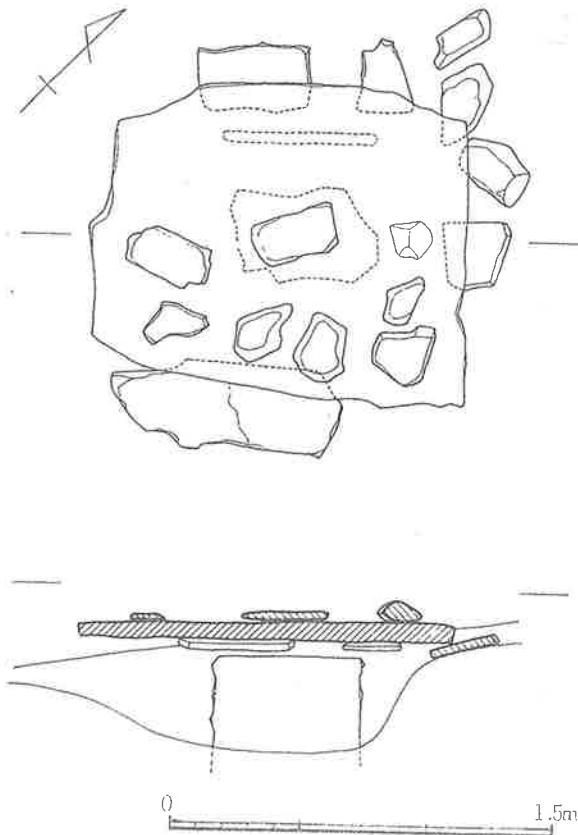


長崎県教育委員会, 1996 『原形・古代の長崎県』資料編 I  
 水野清一・樋口隆康・岡崎敬, 1953 『対馬—玄海における縄島対馬の  
 考古学的調査—』東洋考古学会

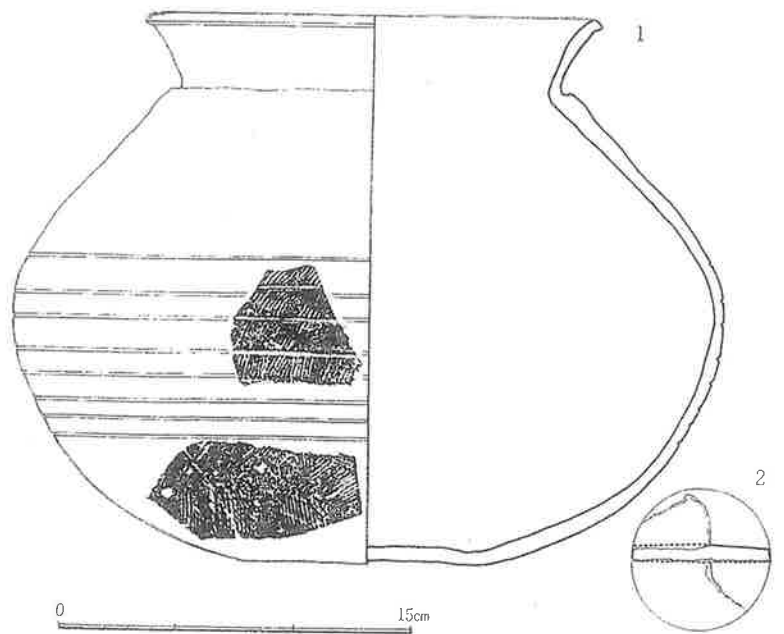




小姓島遺跡地形実測図



小姓島遺跡第3号石棺実測図

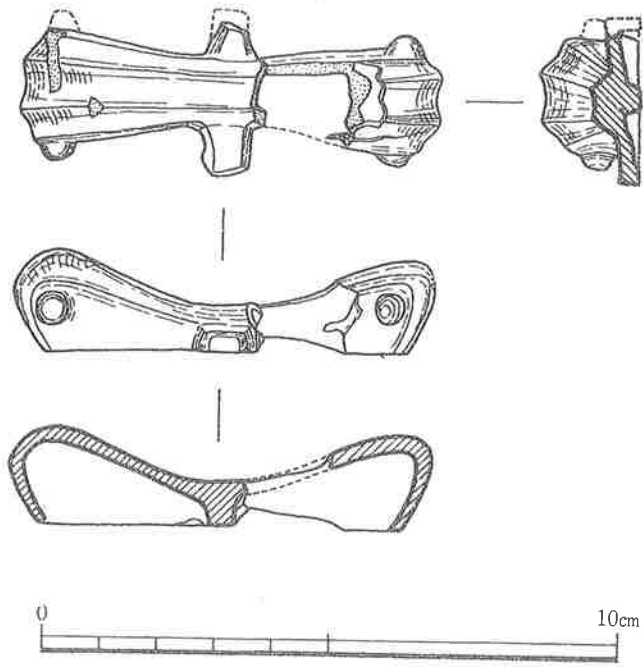


小姓島遺跡第3号石棺出土遺物実測図

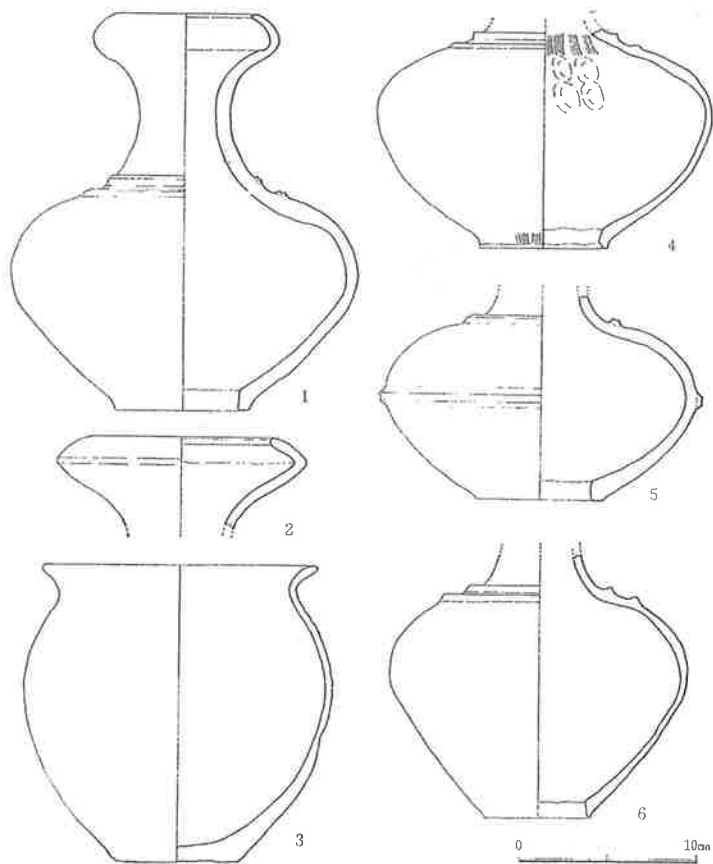
九州大学文学部考古学研究室, 1974『大馬—涼夢灣—の  
 周知の考古学調査—』『長崎県文化財調査報告書』第17集  
 長崎県教育委員会



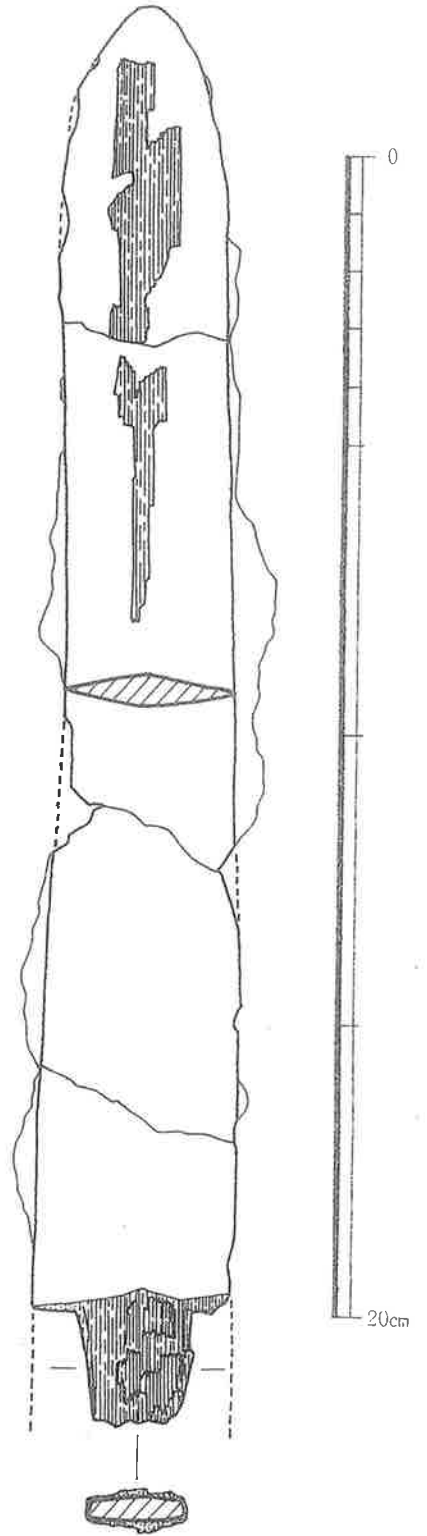
小姓島遺跡第5号石棺実測図



小姓島遺跡第5号石棺出土十字形劍把頭金具実測図

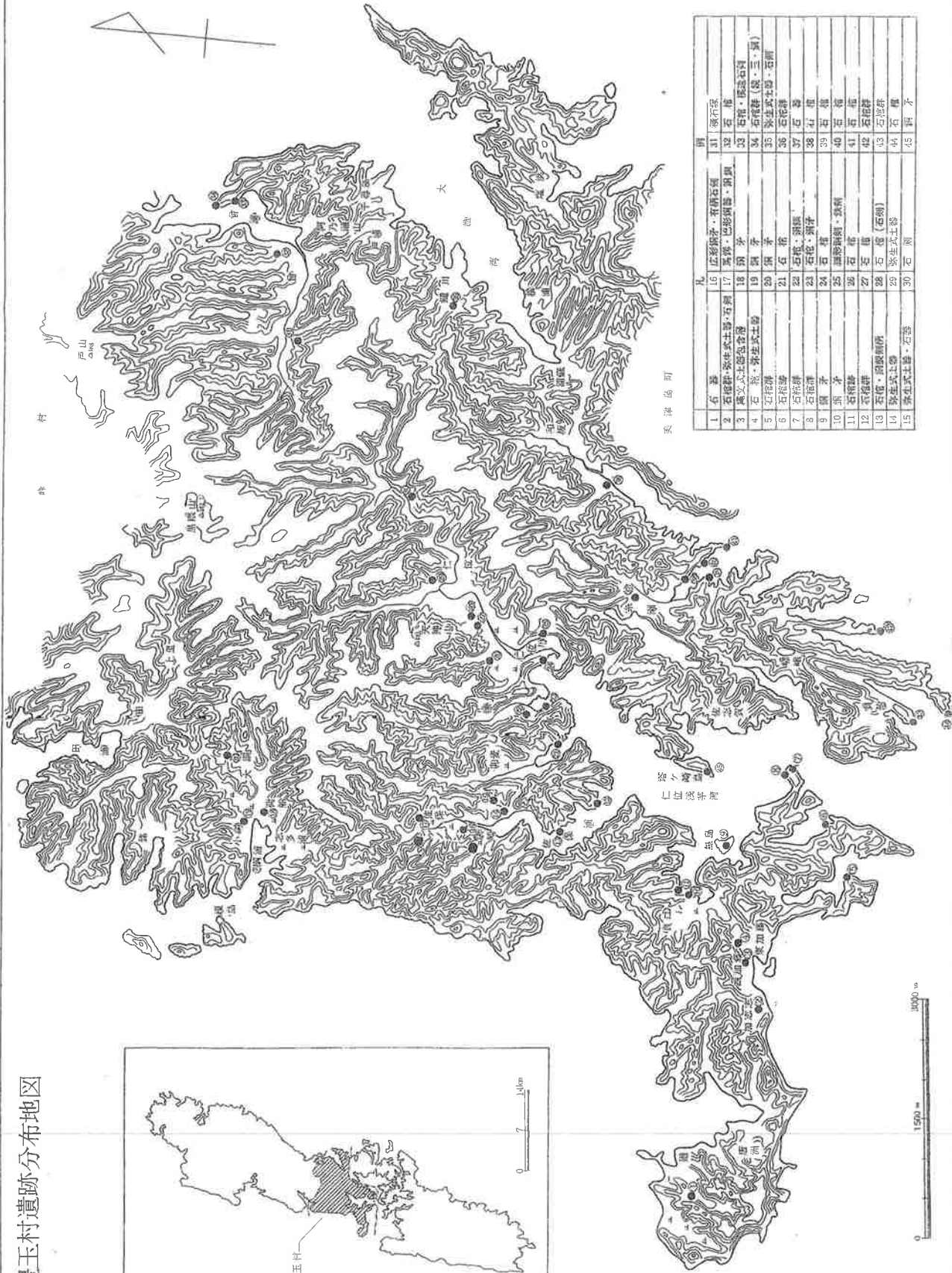
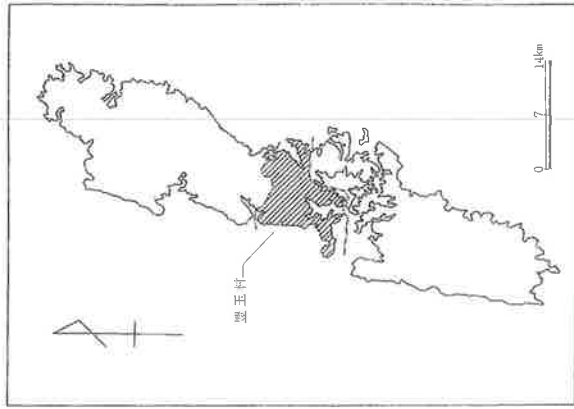


小姓島遺跡第5号石棺出土土器実測図



小姓島遺跡第5号石棺  
出土鉄劍実測図

对馬豊玉村遺跡分布地図

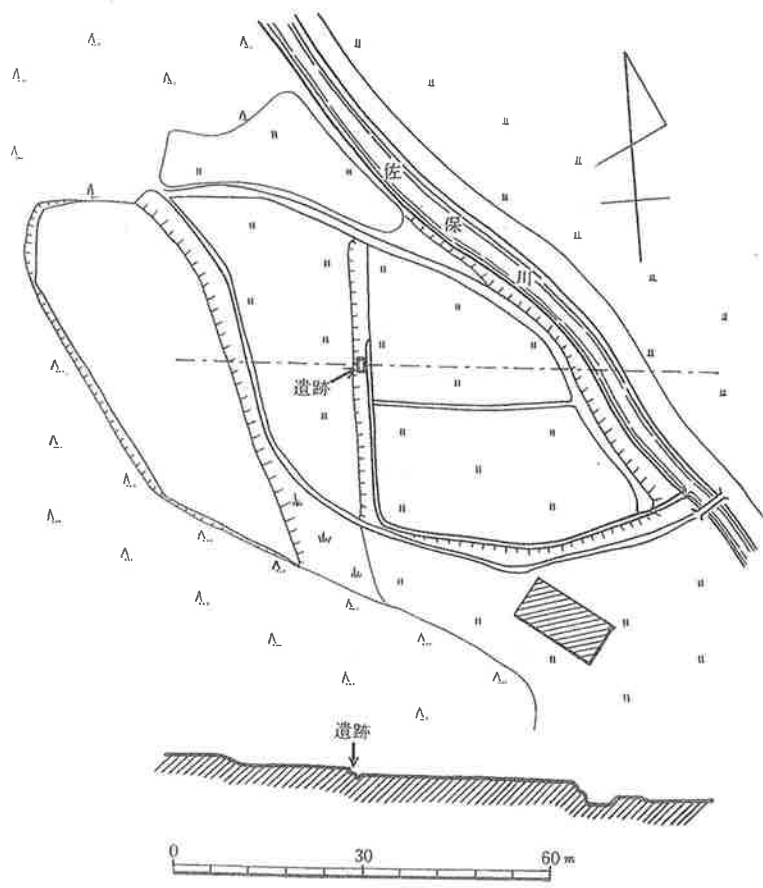
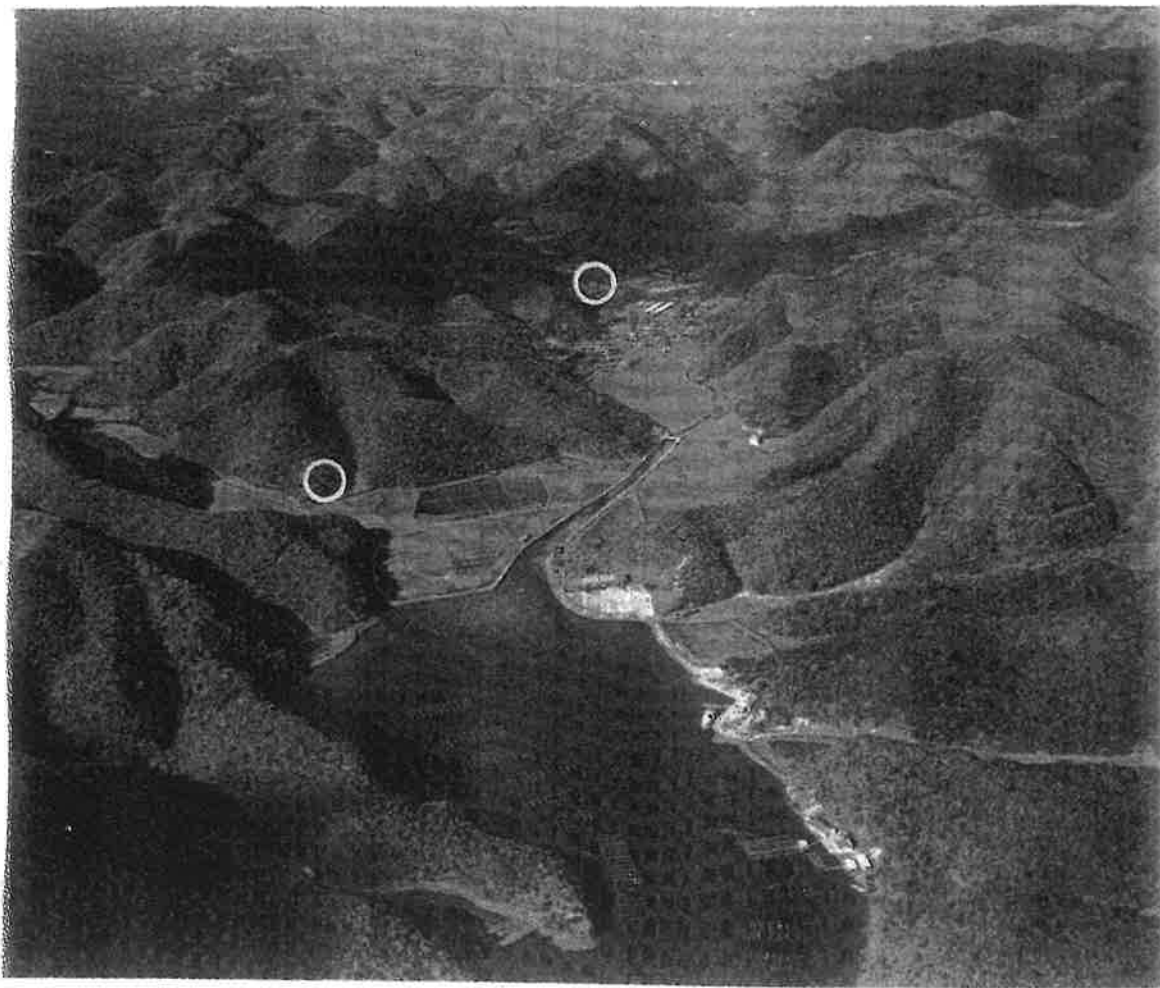


長津島町

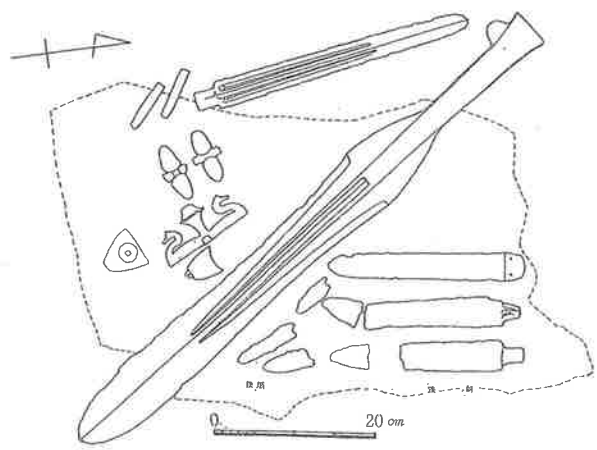
丸		明	
1	石器	16	土器・銅器・有明古銅
2	石棺群・弥生式土器・石割	17	高塚・土器・銅器
3	縄文式土器・土器	18	銅斧
4	石斧・弥生式土器	19	銅斧
5	土器群	20	銅斧
6	石棺群	21	石斧
7	石棺群	22	石斧・銅器
8	石棺群	23	石斧・銅器
9	銅斧	24	石斧
10	銅斧	25	銅器・銅器・鉄器
11	土器群	26	石斧
12	土器群	27	石斧
13	土器・銅器	28	石斧(石割)
14	弥生式土器	29	弥生式土器
15	弥生式土器・石器	30	石割
31	弥生式土器	31	弥生式土器
32	石斧	32	石斧
33	石斧・土器	33	石斧・土器
34	土器群(弥生・三・銅)	34	土器群(弥生・三・銅)
35	弥生式土器・石割	35	弥生式土器・石割
36	石棺群	36	石棺群
37	石斧	37	石斧
38	石斧	38	石斧
39	石斧	39	石斧
40	石斧	40	石斧
41	石斧	41	石斧
42	石斧	42	石斧
43	土器群	43	土器群
44	石斧	44	石斧
45	銅斧	45	銅斧

对馬遺跡調査委員会, 1969 『对馬一豊玉村位保シノルン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告』九州大学文学部考古学研究所

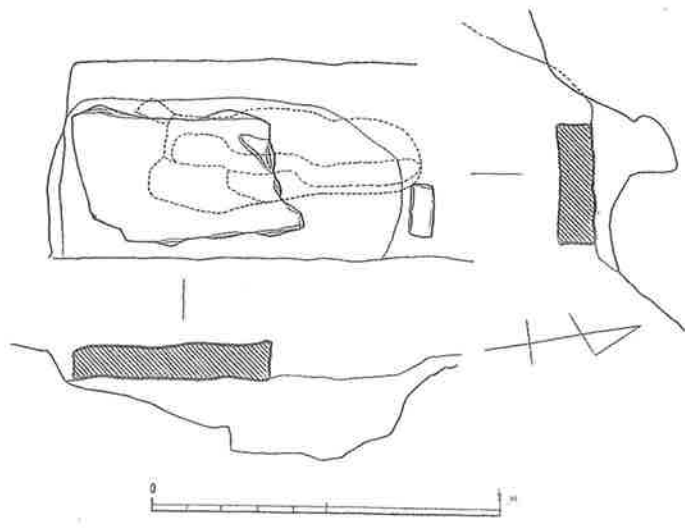
第1図 佐保湾より佐保の集落を望む(航空写真)  
 左の円は唐崎遺跡、右の円はシゲノダン遺跡をあらわす



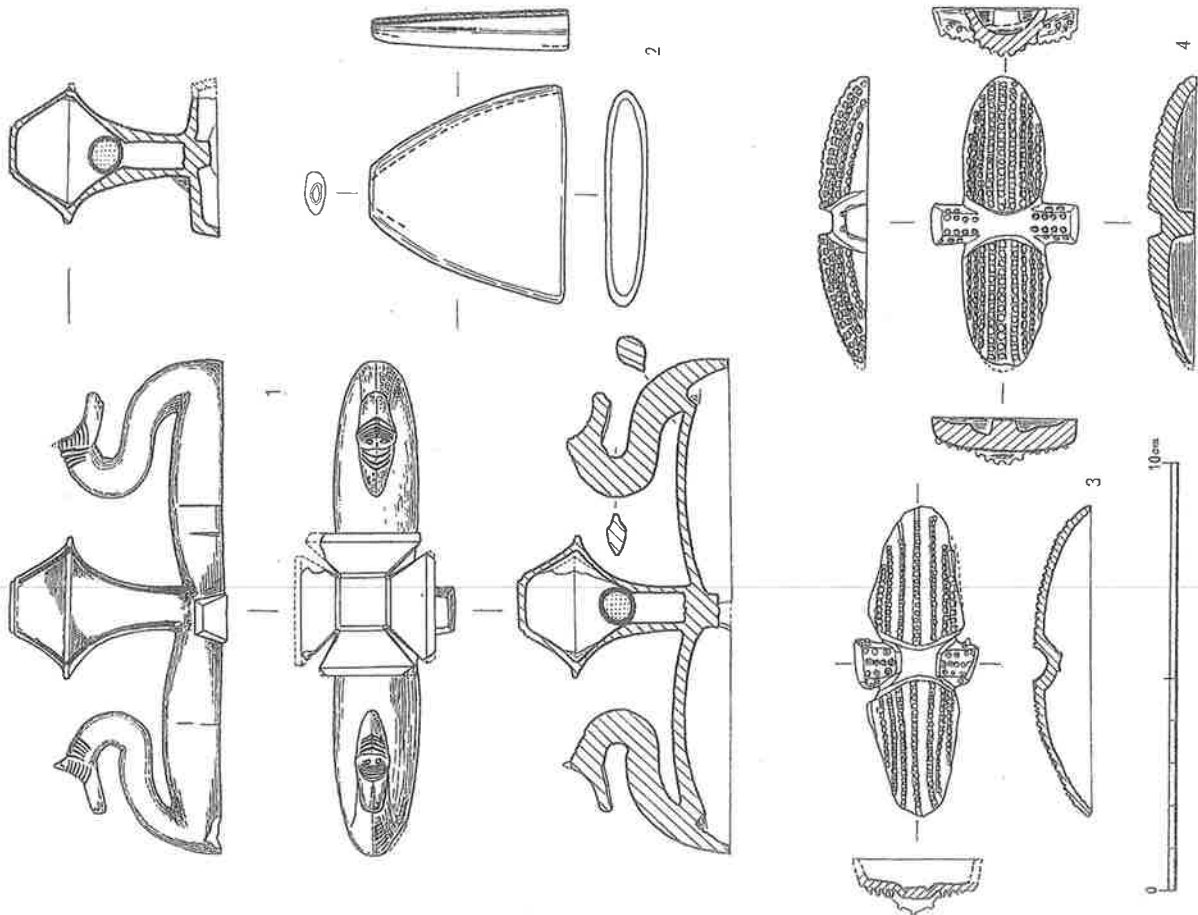
第2図 佐保シゲノダン遺跡付近の地形略測図



第3図 遺物の出土状態(復元図)

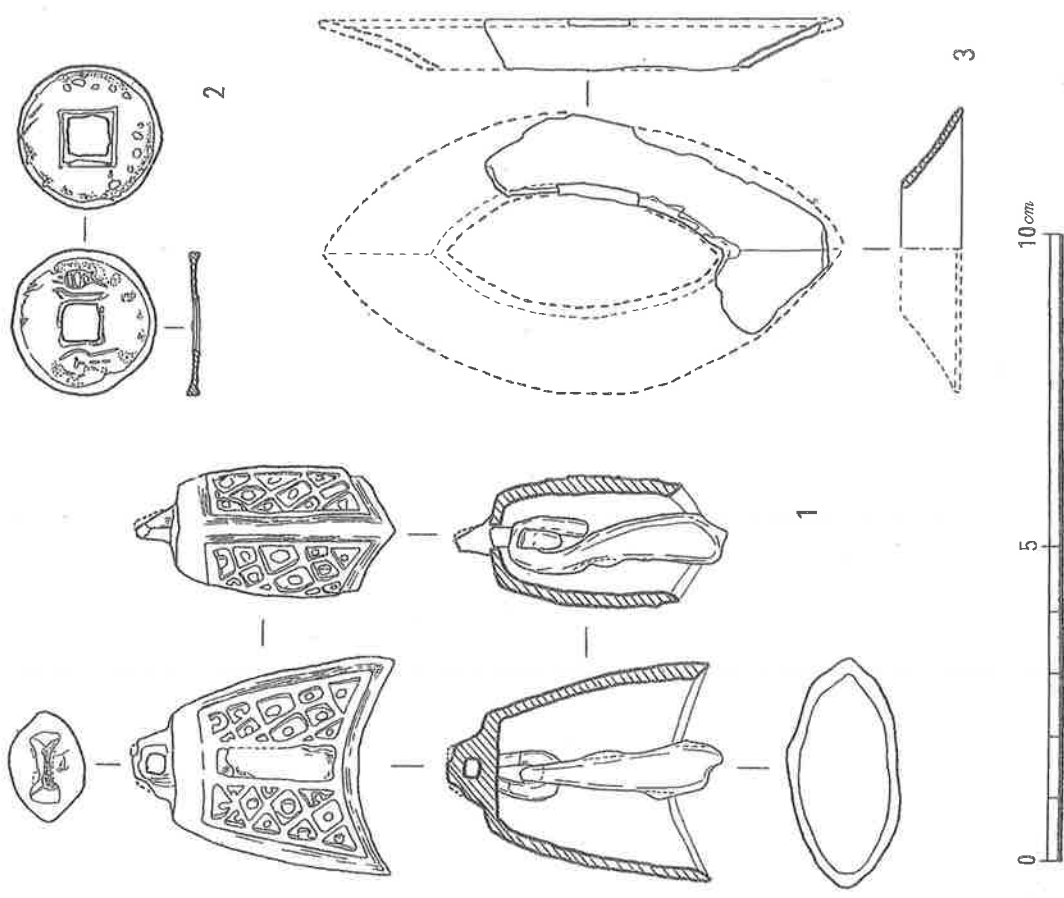


第4図 シゲノダン遺跡の遺構図



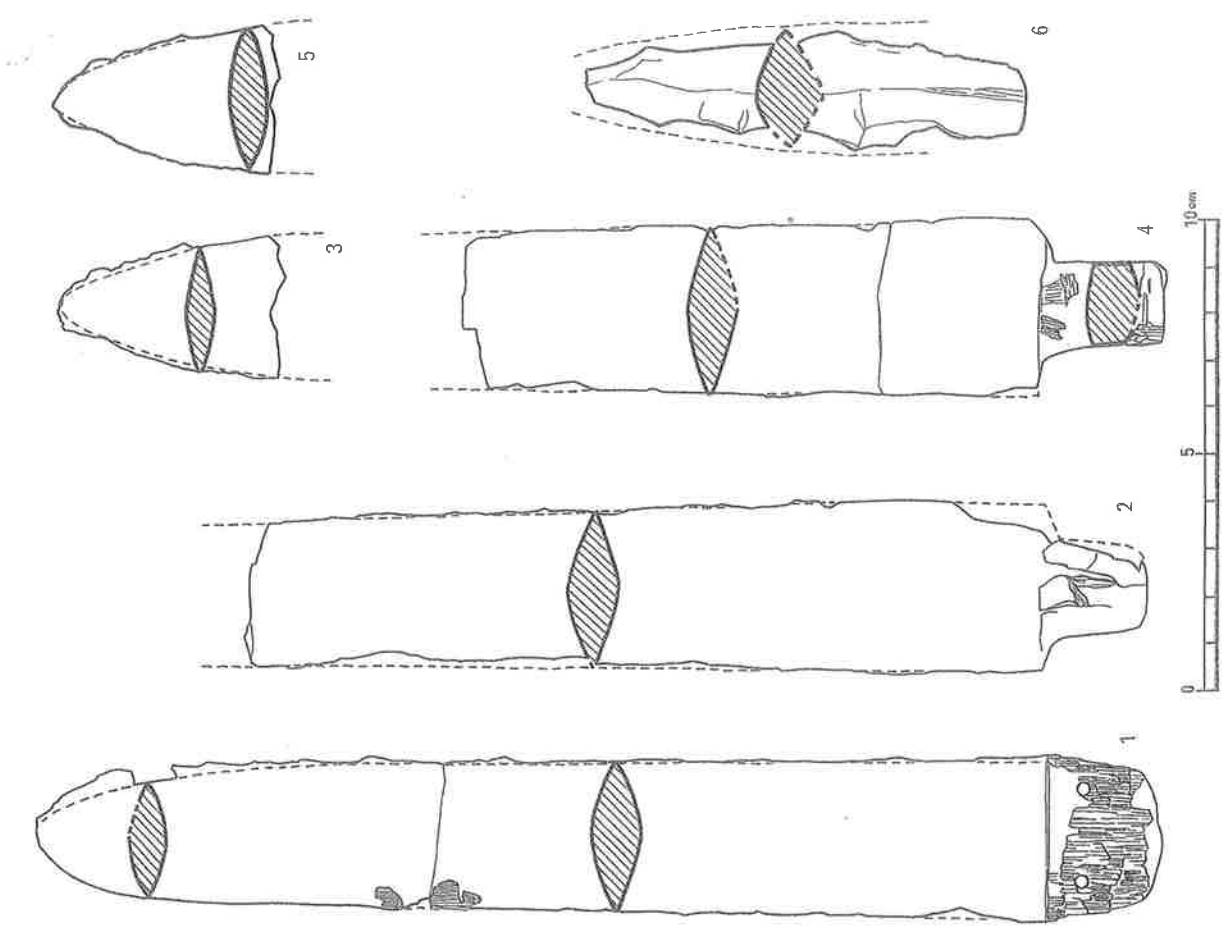
第5図 シゲノダン出土船載青銅器実測図

(1は双獸付十字形把頭金具, 2は鞘先状金具, 3・4は粟粒文十字形把頭金具)

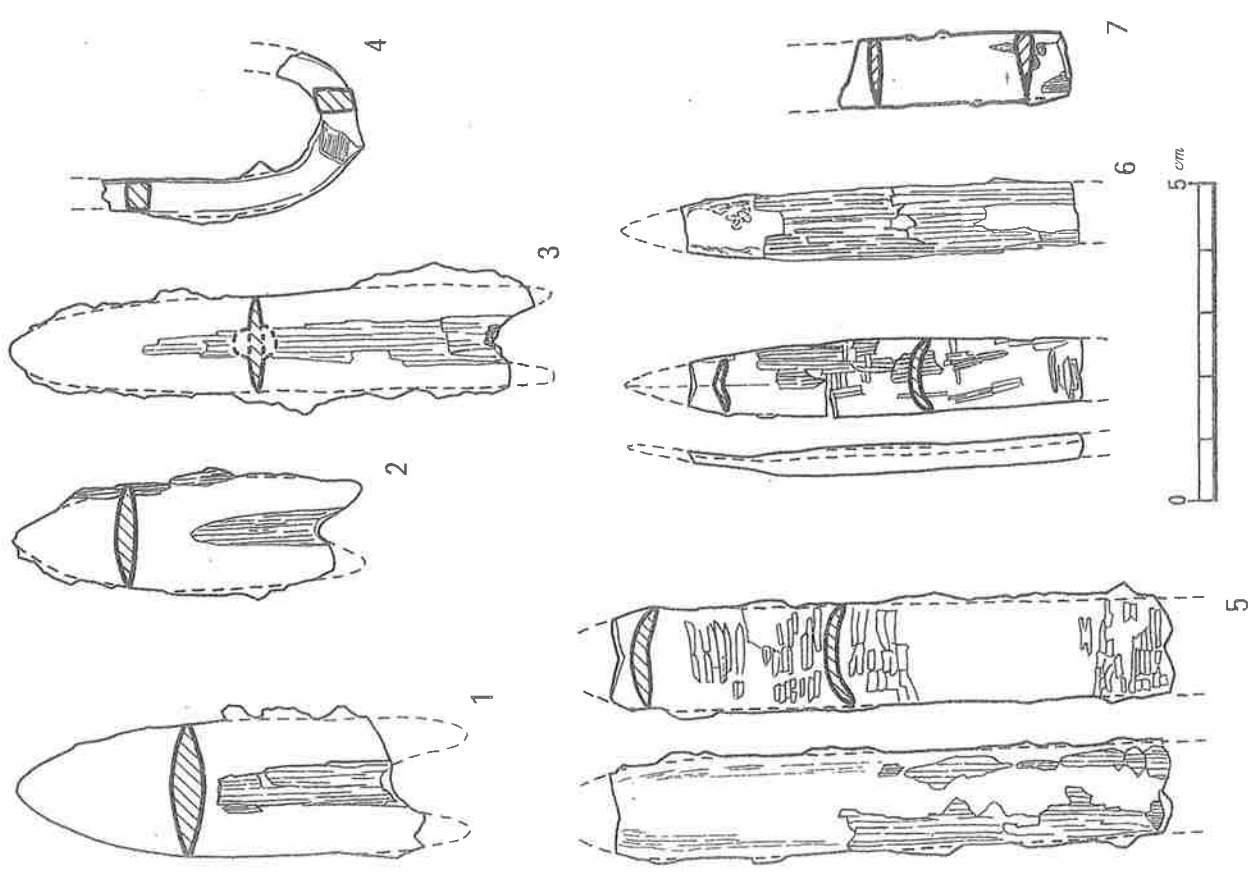


第6図 シゲノダン出土船載青銅器実測図

(1は馬釵, 2は貨泉, 3は鐙形銅器)

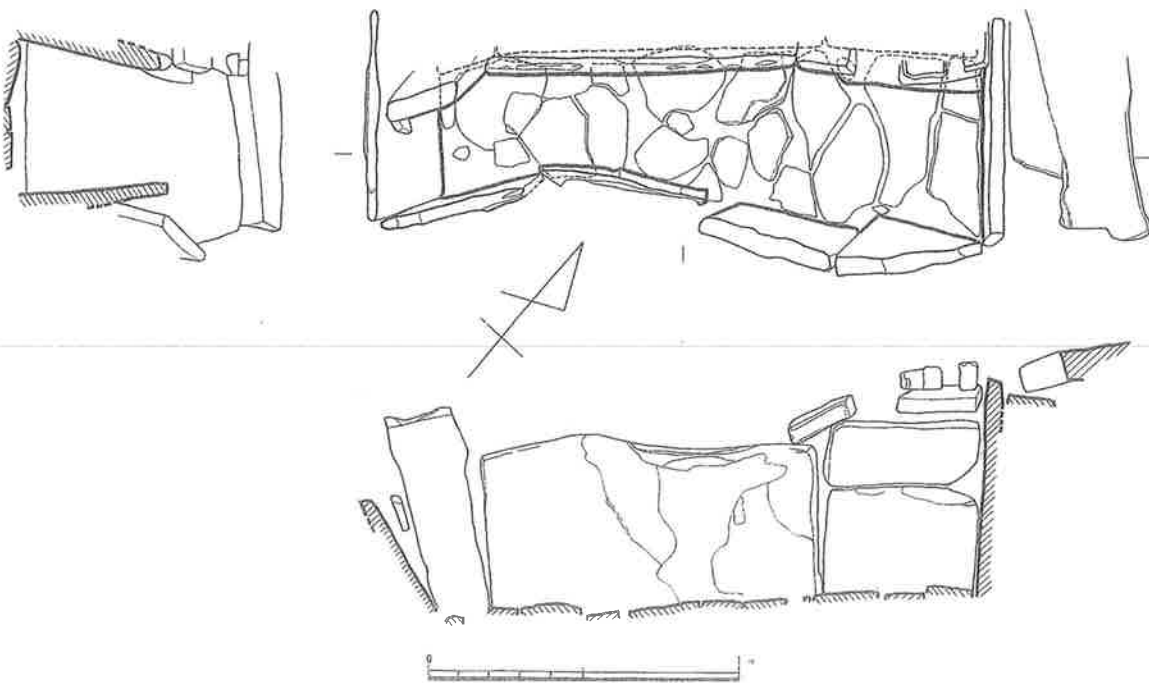
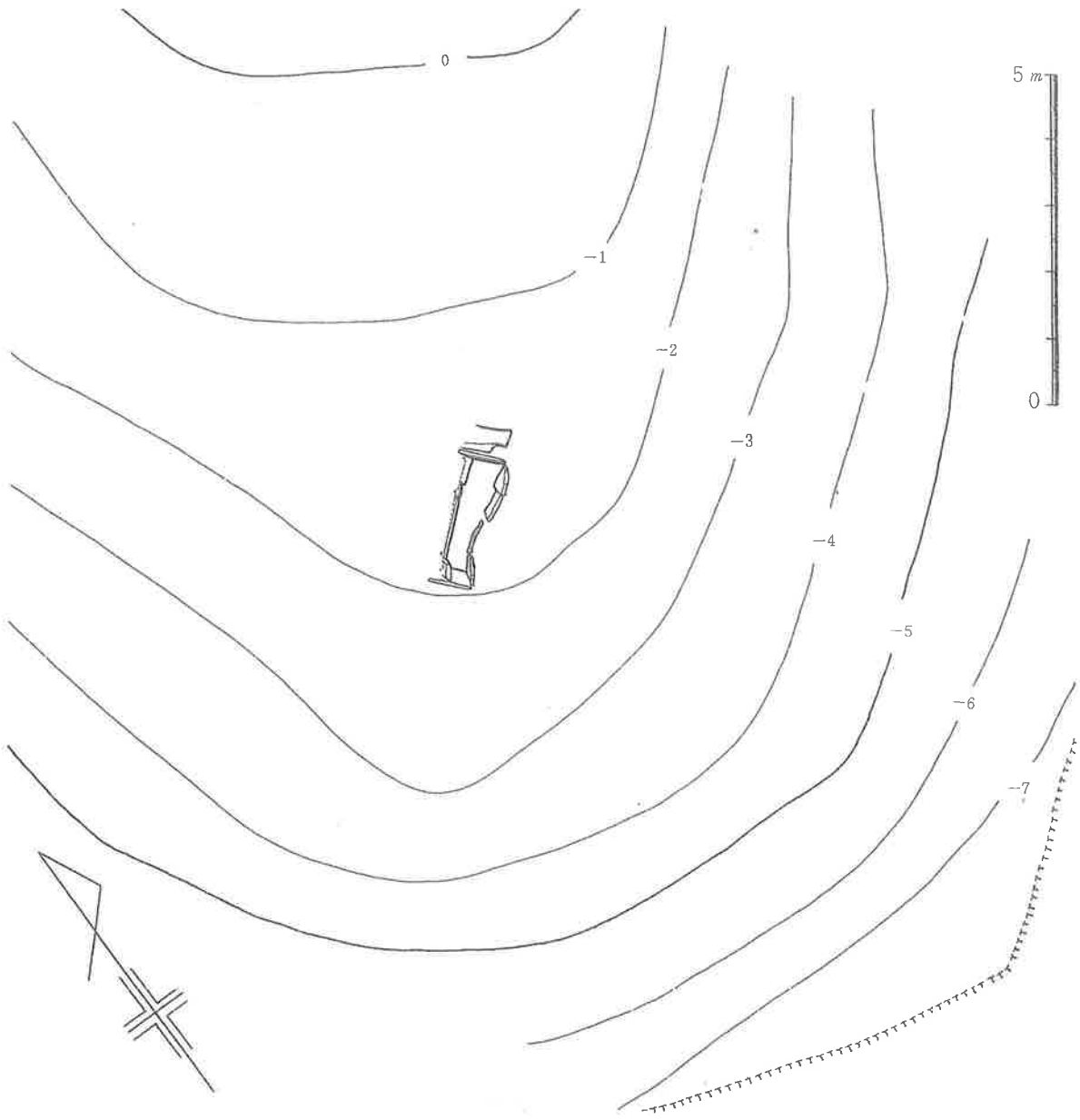


第8図 シゲノダン出土鉄器実測図  
 (1～5は鉄剣, 6は矛状鉄器)



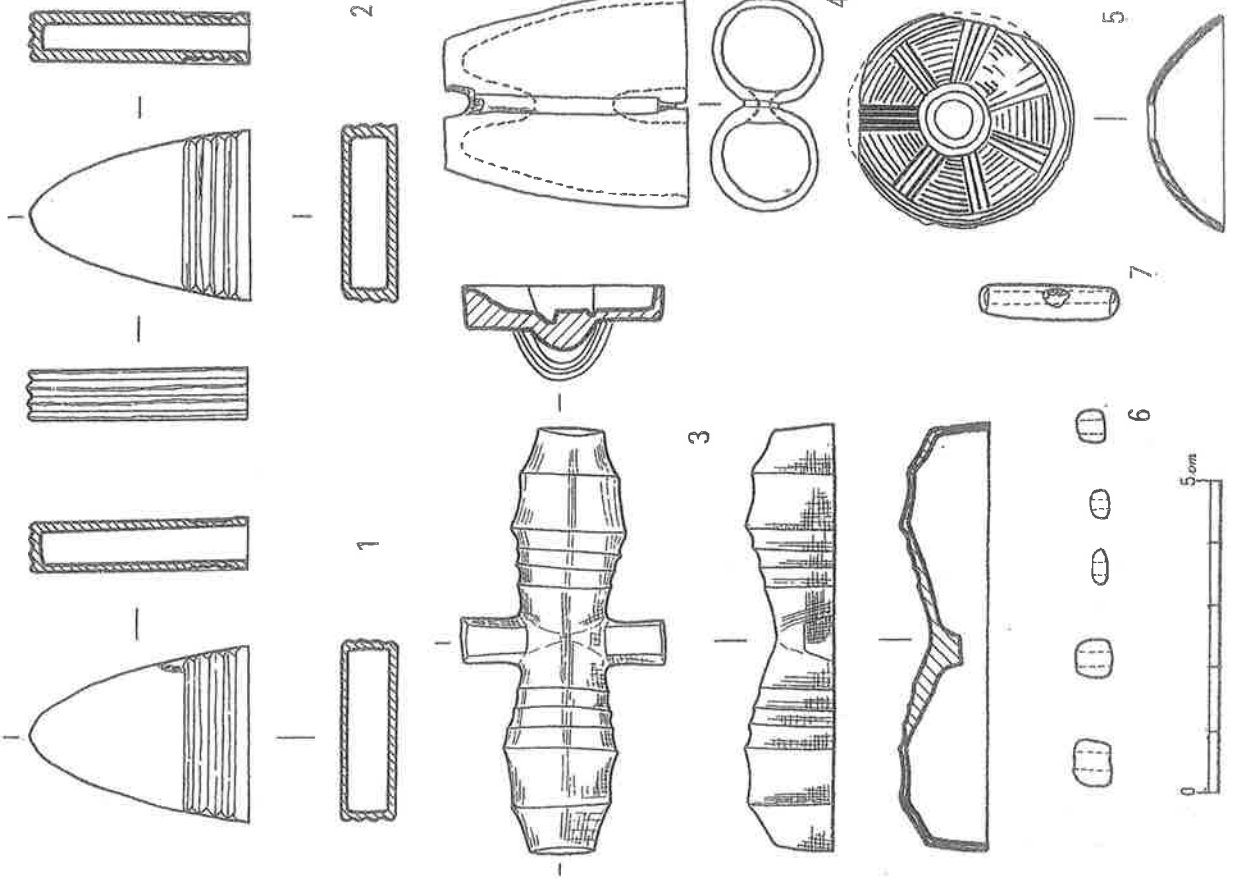
第7図 シゲノダン出土鉄器実測図  
 (1～3は鉄鏃, 4は鈎状鉄器, 5・6は鉈, 7は刀子)

唐崎遺跡の地形図



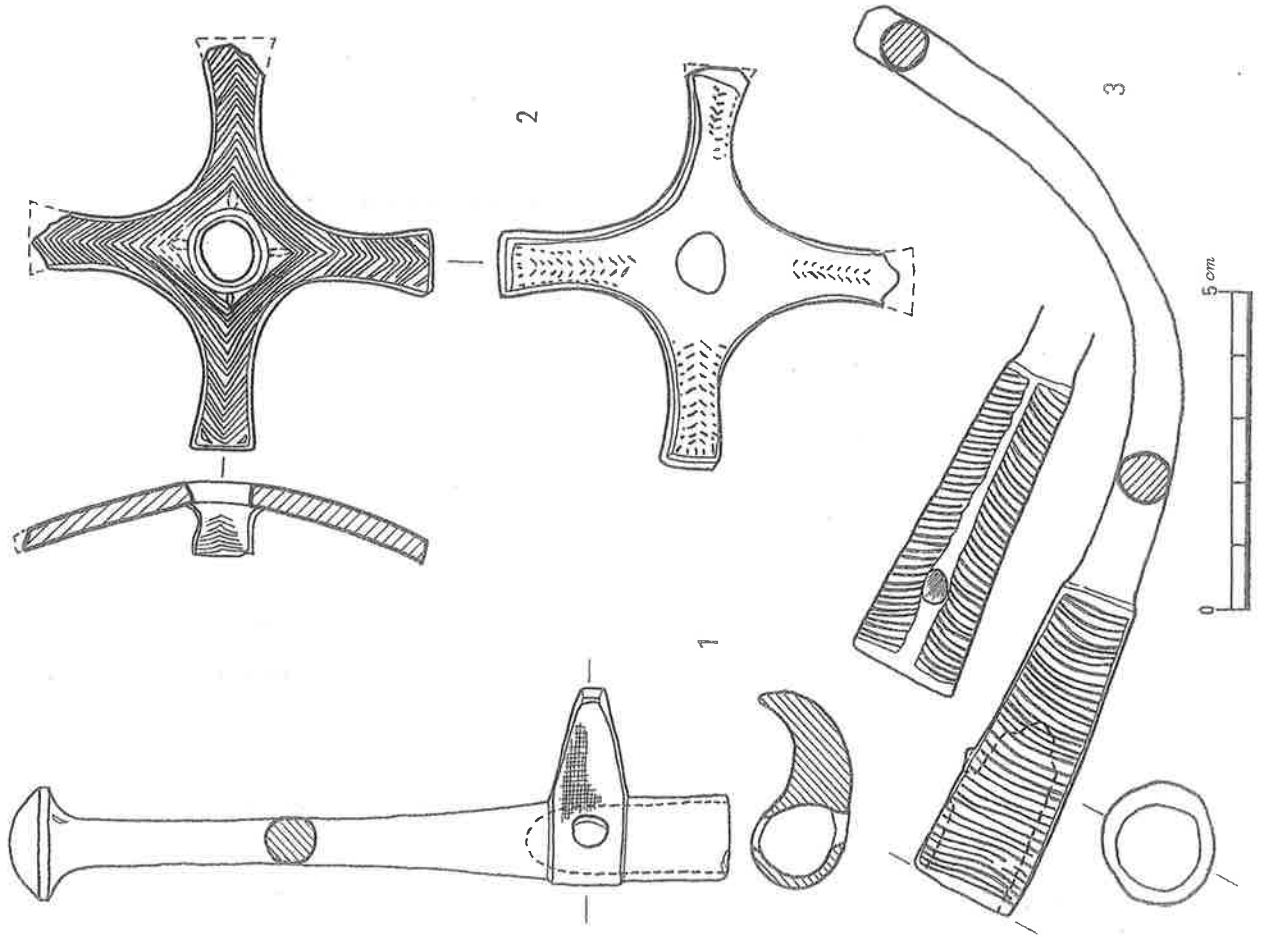
唐崎遺跡箱式石棺実測図





唐崎出土船載青銅器及び玉類実測図

(1・2は鞘先金具, 3は十字形把頭金具, 4は双頭管状銅器  
5は鈕状銅鉢, 6は丸玉, 7は管玉)



唐崎出土船載青銅器実測図

(1は有孔笠頭形銅器, 2は有孔十字形金具, 3は角形銅器)

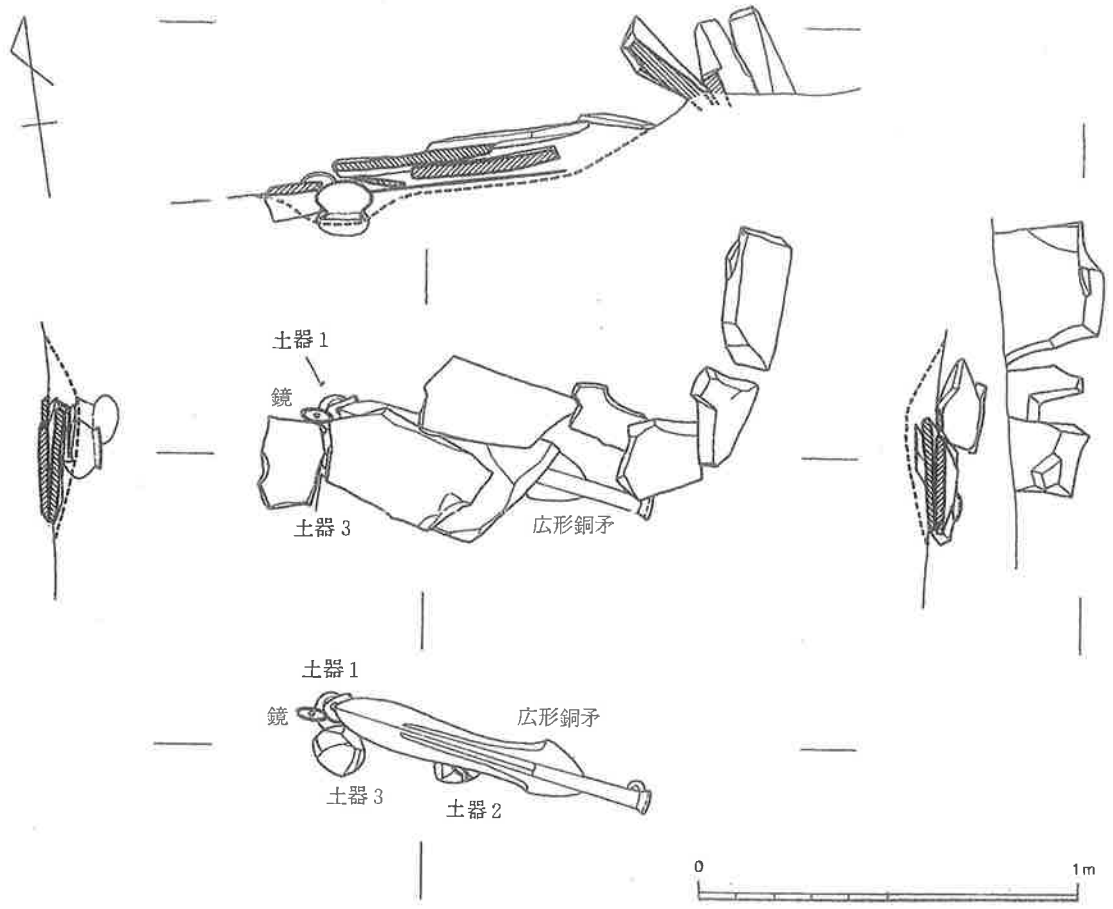


- 1…ハロウ、2…東の浜、3…糠の浜、4…ソウダイ、5…シゲノダン  
 6…キロスガ浜、7…唐崎、8…黒木南鼻、9…佐保浦赤崎、10…黒島

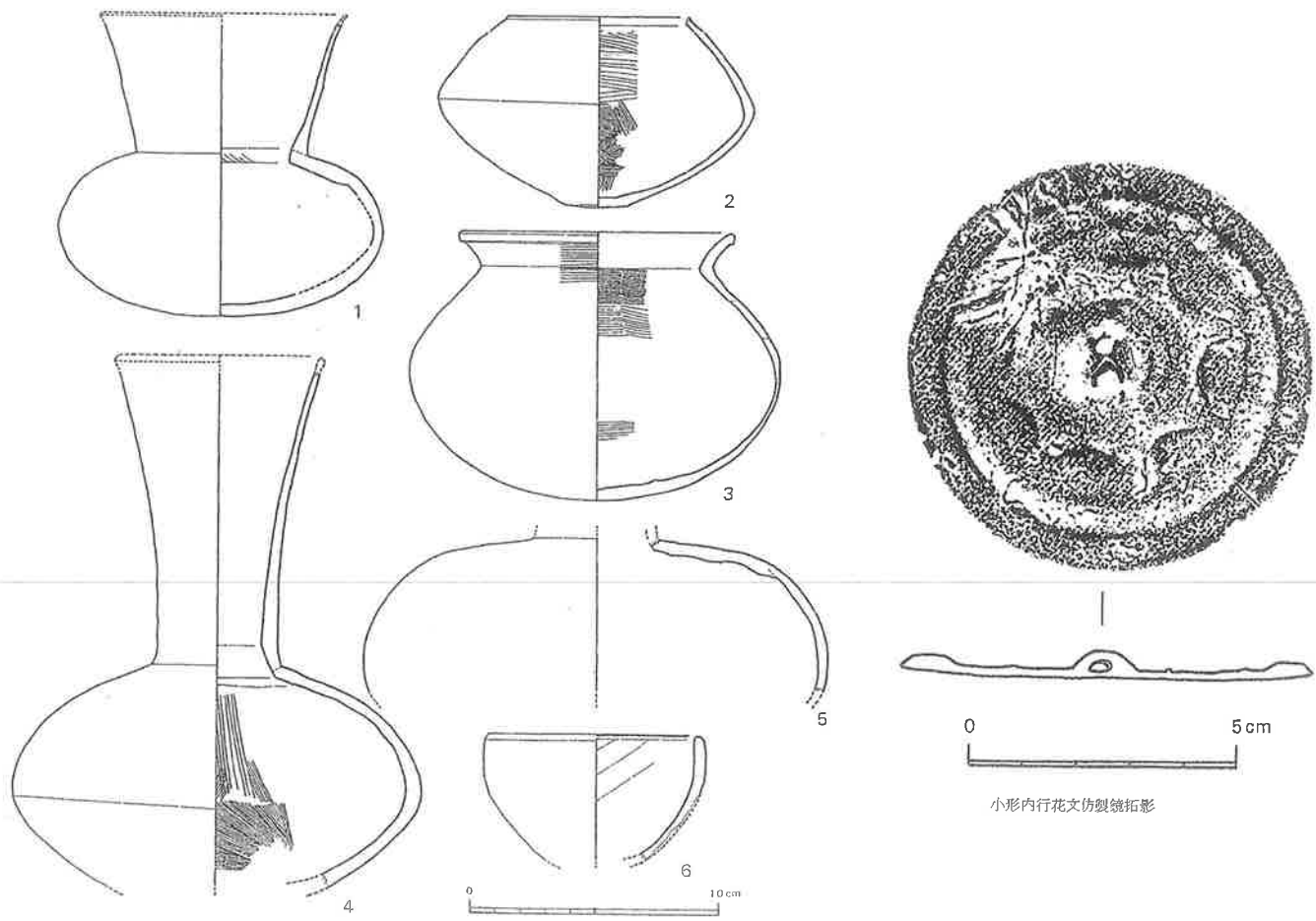
ハロウ遺跡周辺図

豊玉町教育委員会、1980『対馬豊玉町ハロウ遺跡——長崎県下県郡豊玉町大字  
 仁位所在箱式石棺墓群の調査報告——』

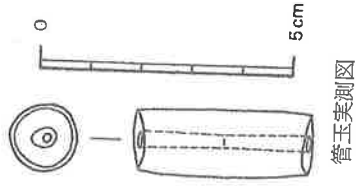
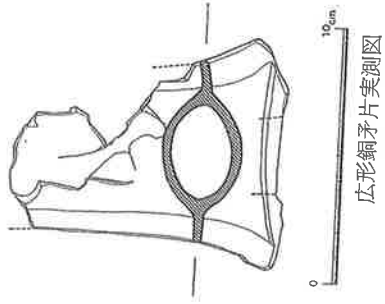




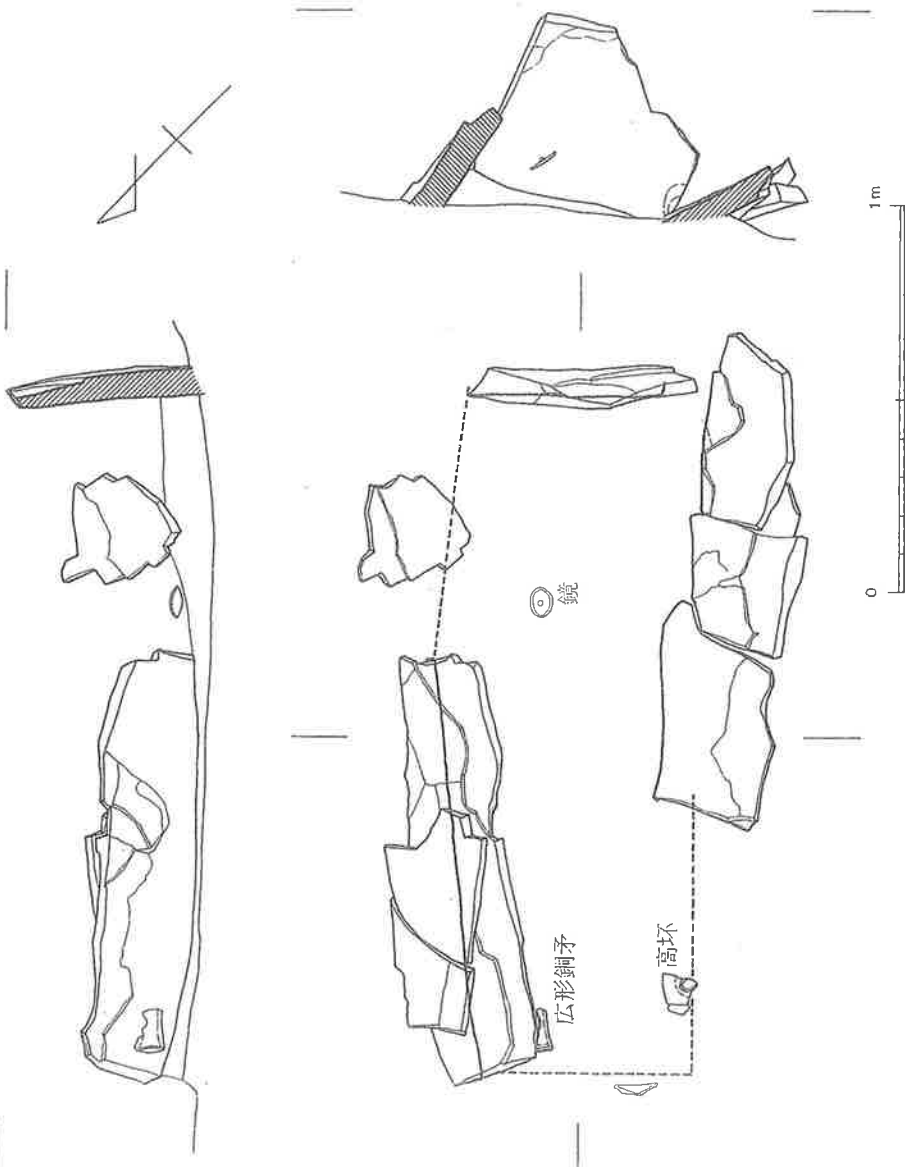
ハロウ遺跡A地点第5号箱式石棺墓実測図

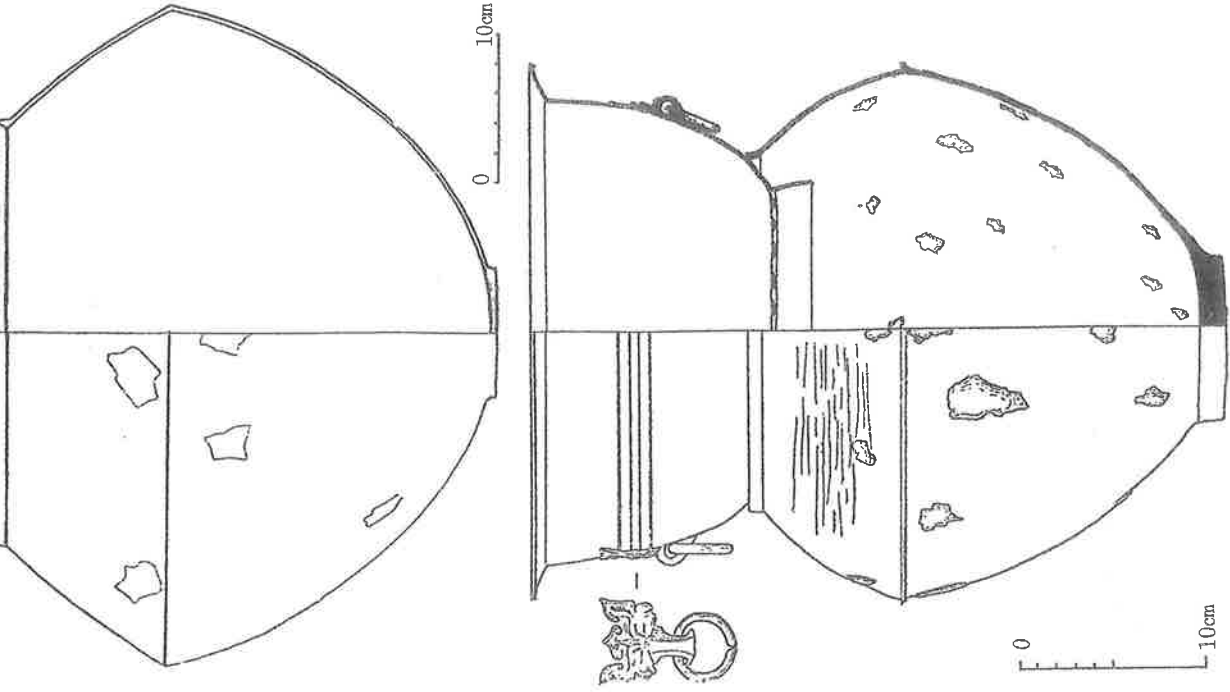


第5号箱式石棺墓出土土器実測図

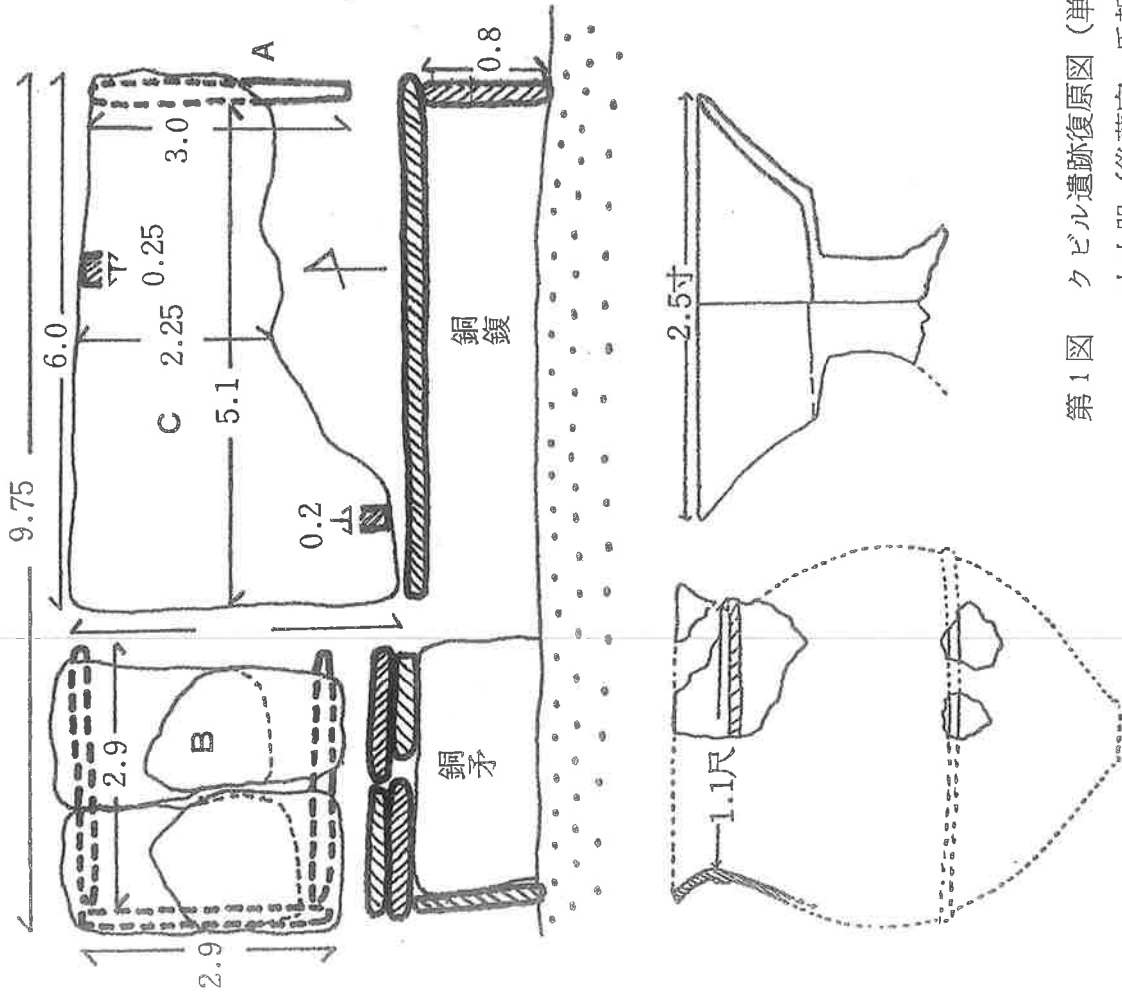


広形銅矛実測図



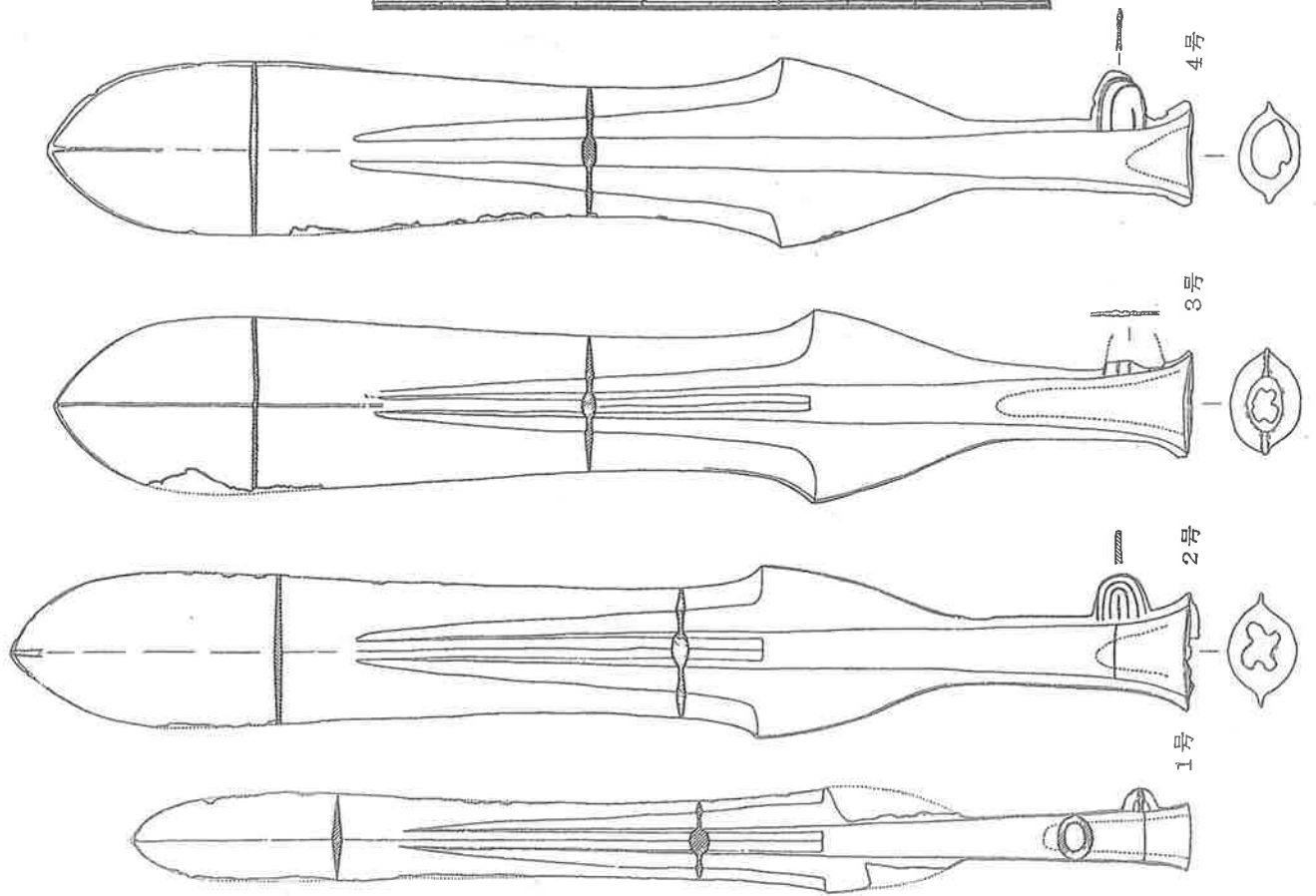


第2図 銅鏡実測図 (上・対馬クビル, 下・天理参考館蔵品)  
(上・東田考古学会「対馬」, 下・金岡忍氏による)

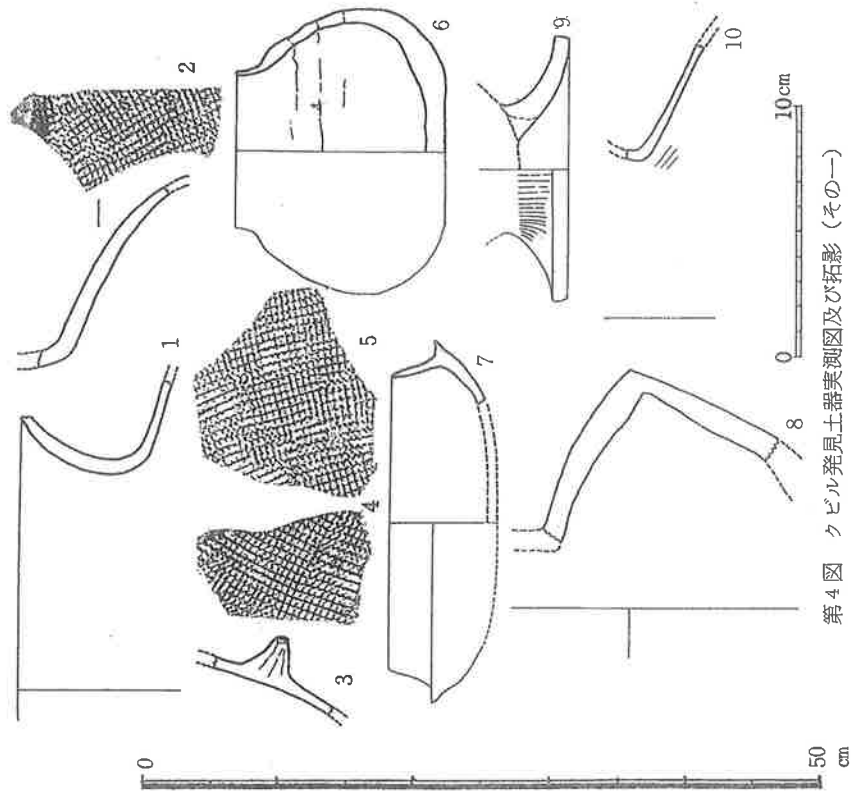


第1図 クビル遺跡復原図 (単位・尺) と出土土器 (後藤守一氏報文による)

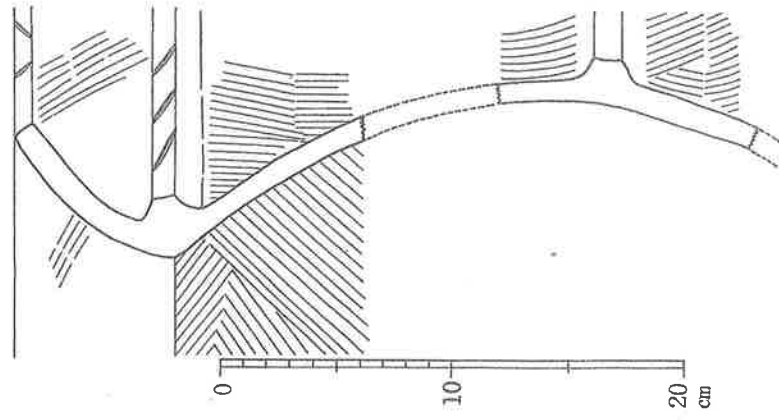
小田富士雄, 1977「対馬・クビル遺跡の再検討」『考古論集』



第3図 クビル出土銅矛実測図



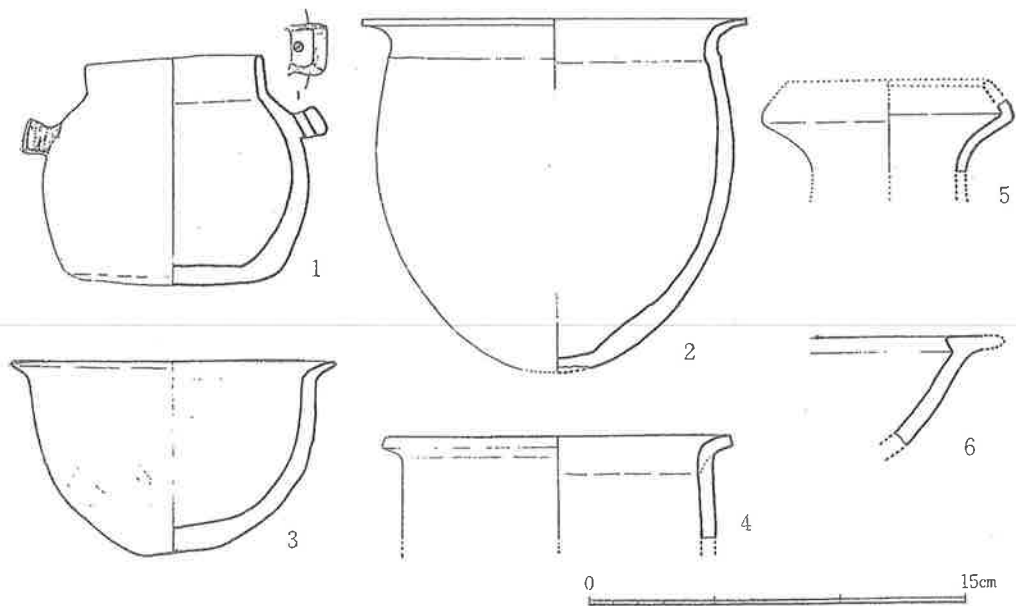
第4図 クビル発見土器実測図及び拓影(その一)



第5図 クビル発見土器実測図(その二)



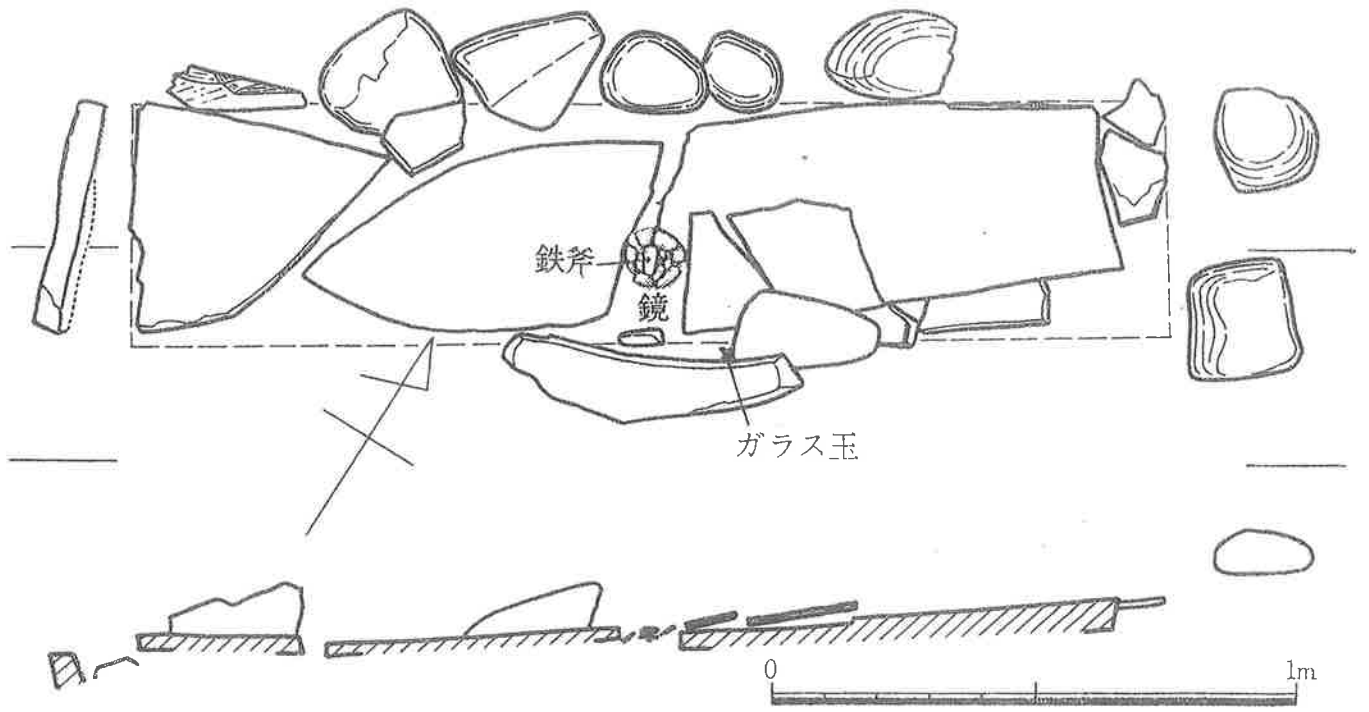
古里塔ノ首遺跡地形実測図



古里塔ノ首遺跡第2号石棺内外出土土器実測図

九州大学文学部考古学研究室，1974『対馬—流茅湾と其の周辺の考古学調査—』  
 『長崎県文化財調査報告書』第17集，長崎県教育委員会

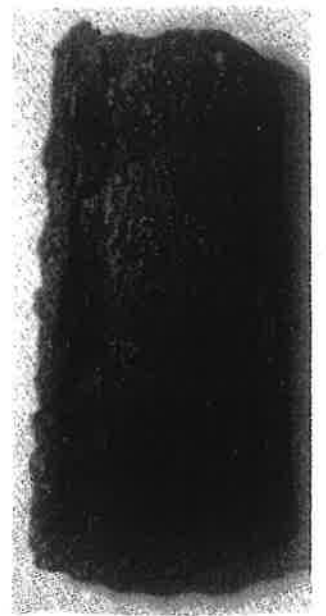




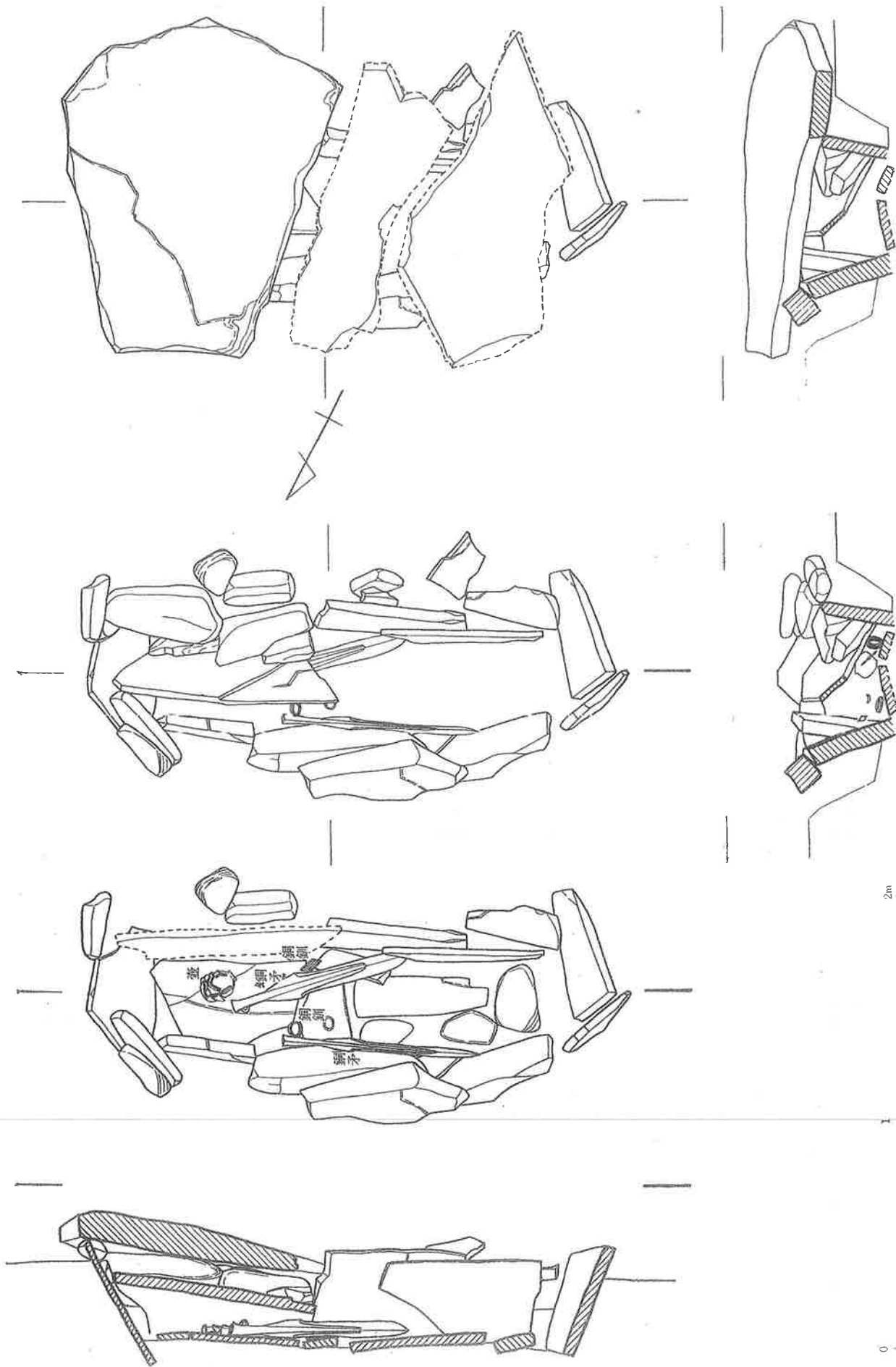
古里塔ノ首遺跡第4号石棺実測図



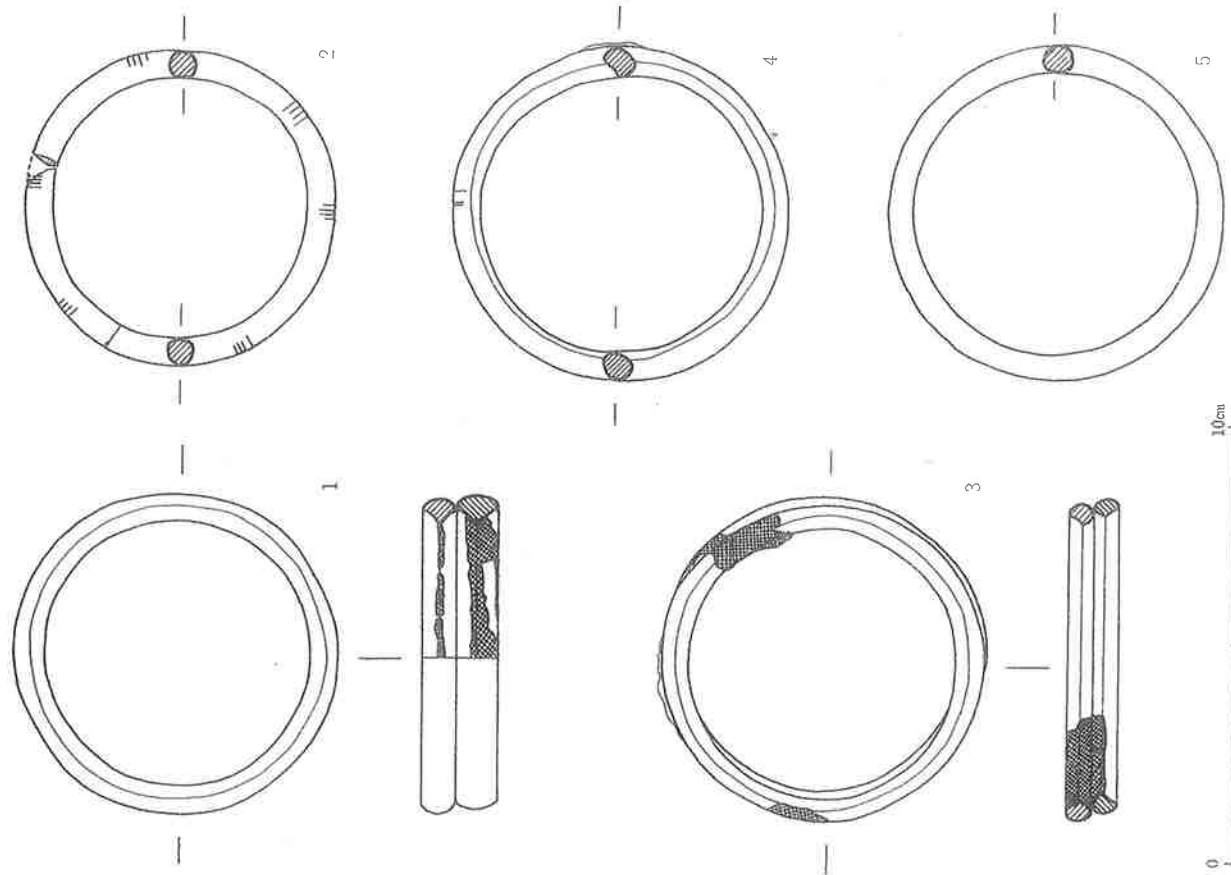
第4号石棺遺物



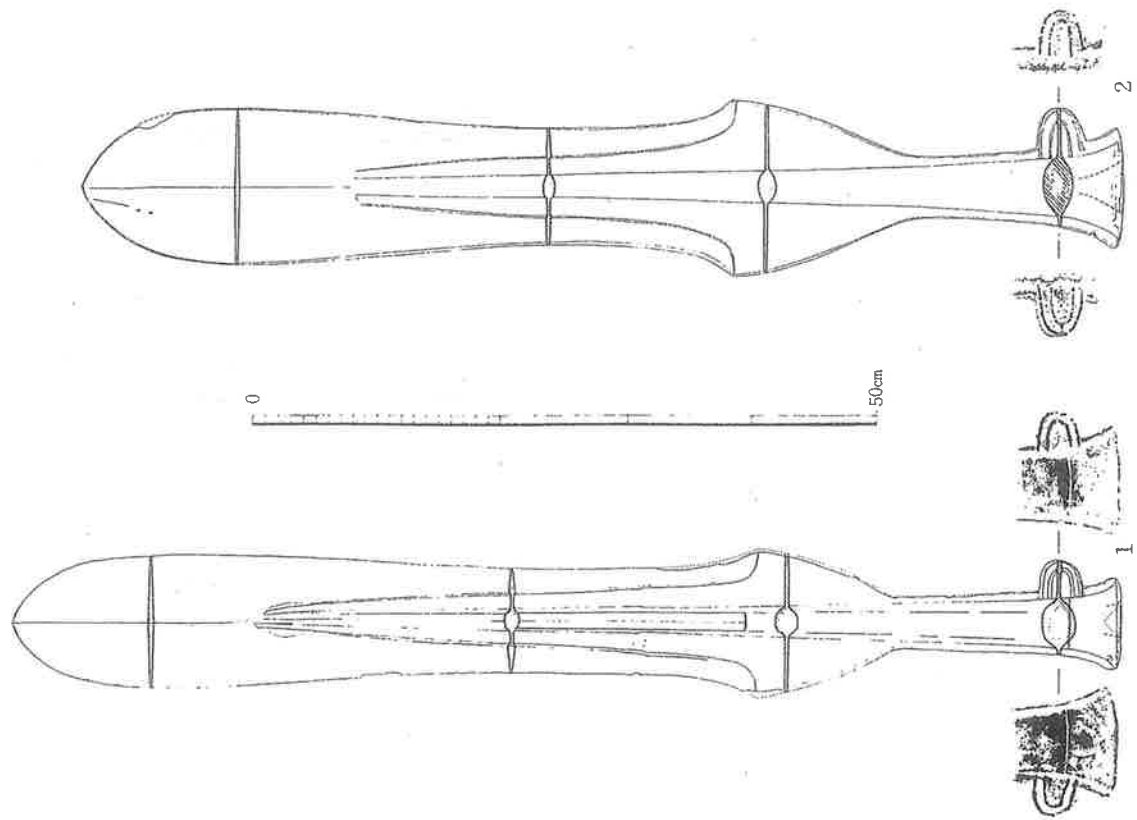
鏡・鉄斧・小玉



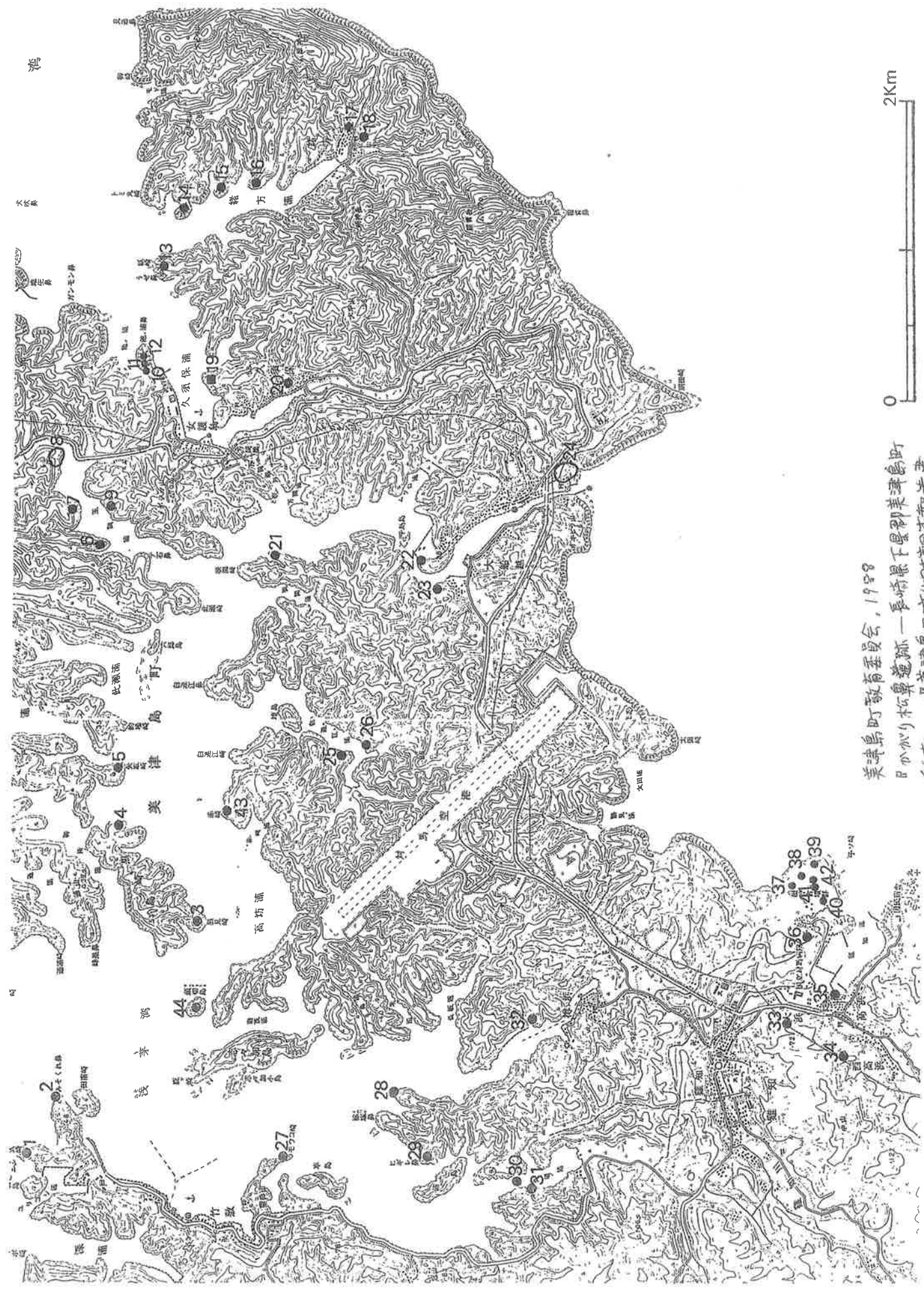
古里塔ノ首遺跡跡第3号石棺発掘区画(1)



古里塔ノ首遺跡第3号石棺出土銅劍実測図  
 1(R1・2), 2(R3), 3(L1・2), 4(L3), 5(L4)

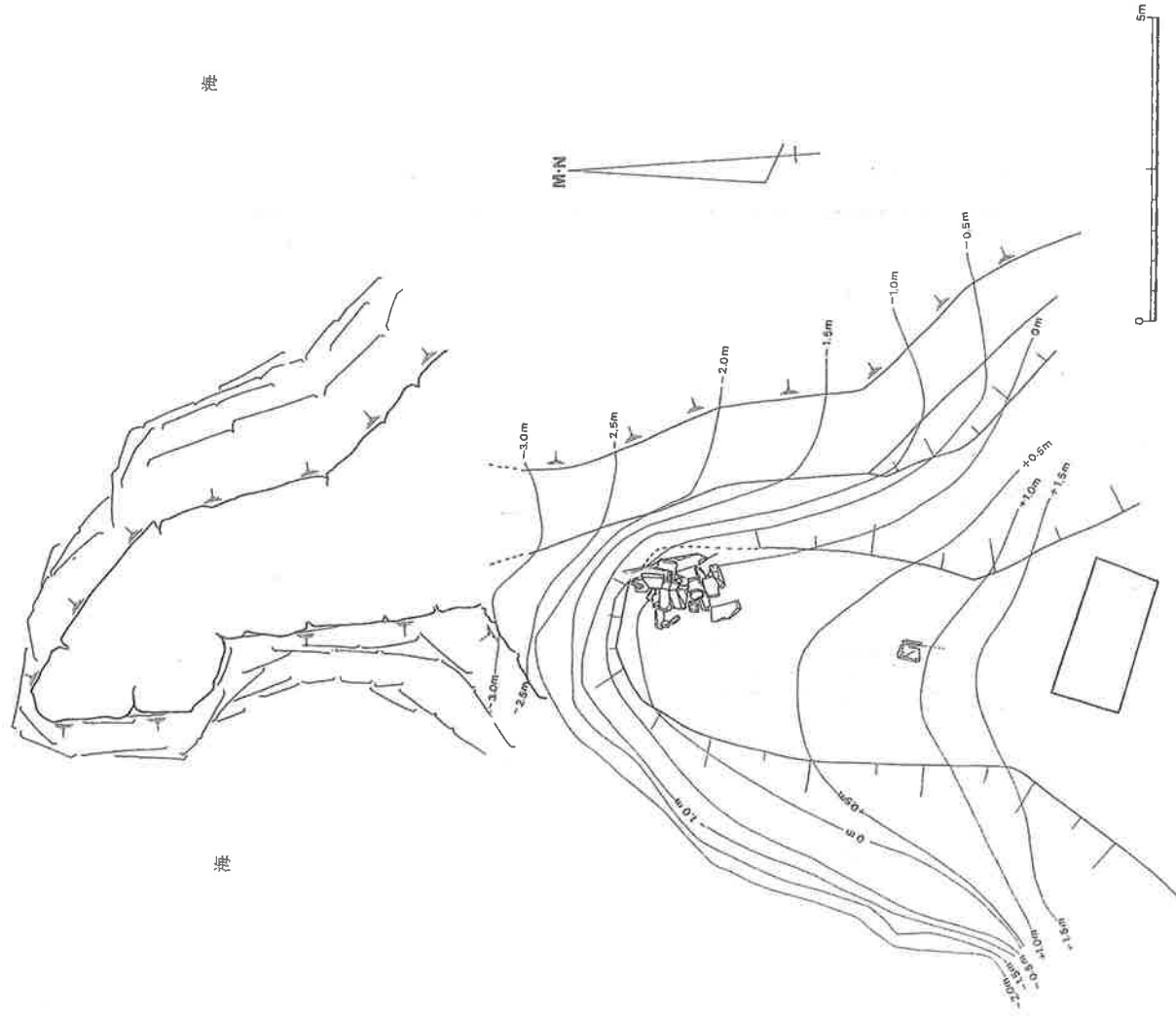
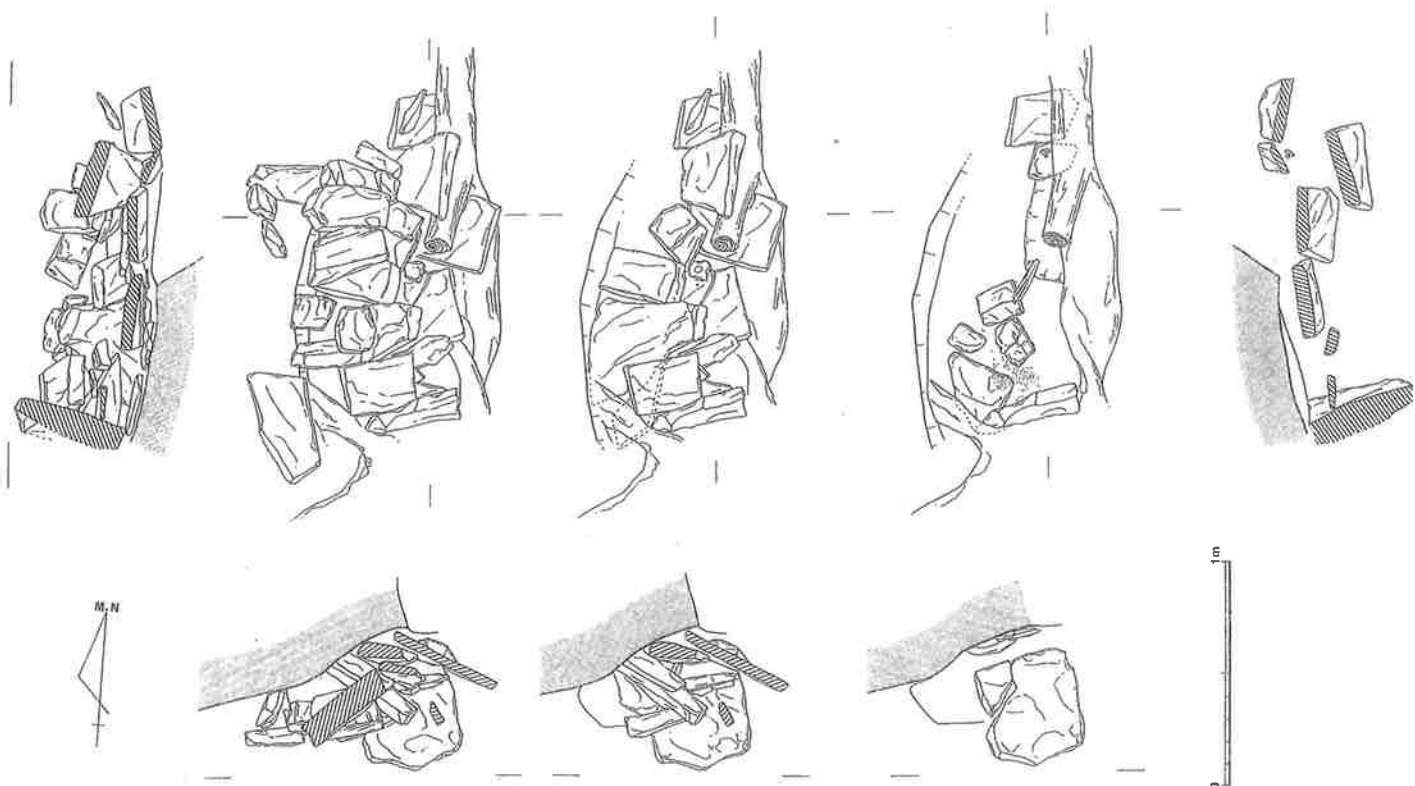


古里塔ノ首遺跡第3号石棺出土銅矛実測図

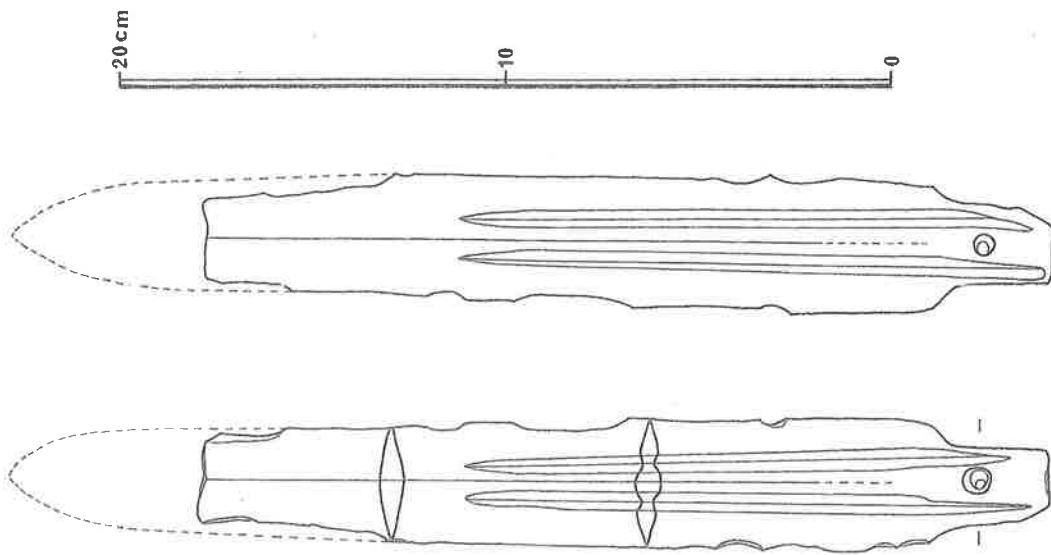


美津島町教育委員会，1988  
 日中かり松鼻遺跡—長崎県下屋別美津島町  
 所在—日中美津島町文化財調査報告書  
 第3集

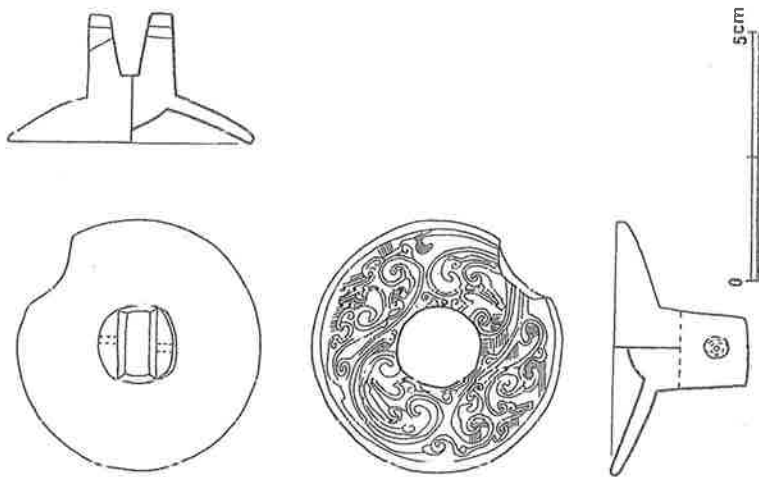
かがり松鼻周辺遺跡図



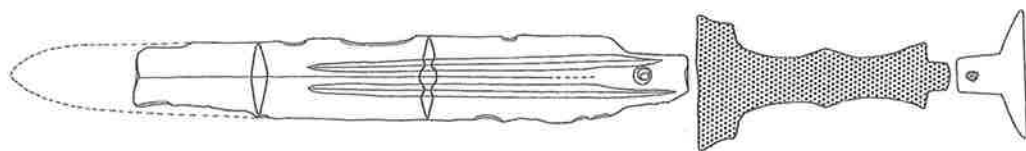
遺跡周辺地形測量図



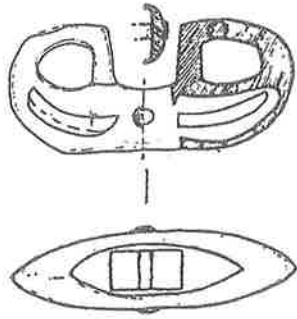
銅劍実測図



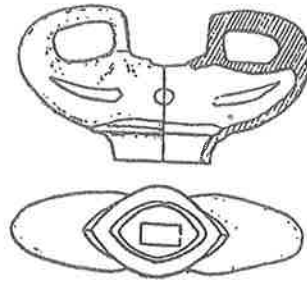
把頭飾実測図



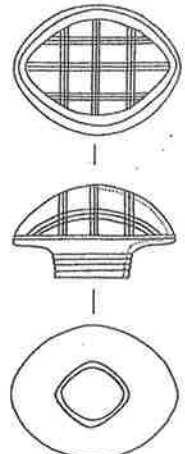
劍・把頭  
飾着装推定図  
(アミ目は推定  
劍柄)



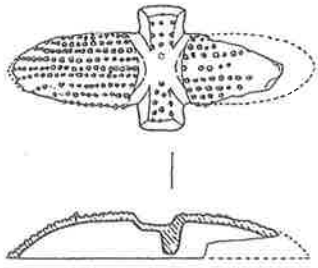
1. サカドウ



2. タカマツノダン



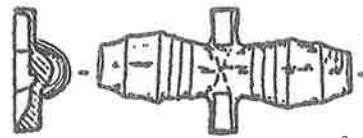
3. 椎ノ浦



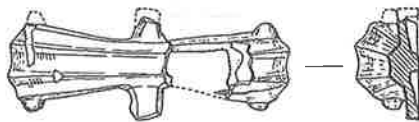
4. キロスガ浜



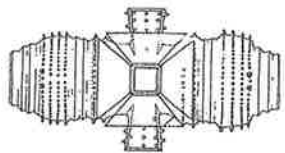
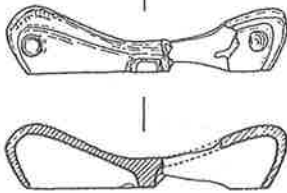
5. シゲノダン



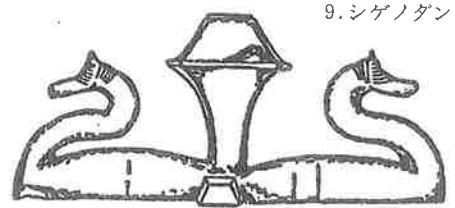
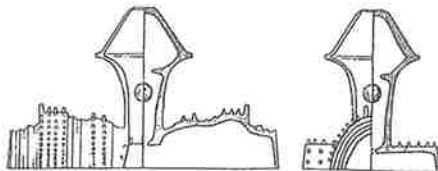
6. 唐崎



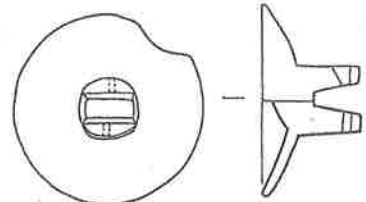
7. 小姓島



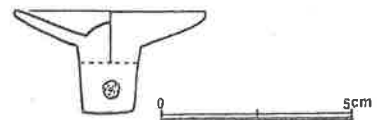
8. 恵比須山



9. シゲノダン



10. かがり松鼻



対馬出土「銅製把頭飾」例

# 「対馬国」の中心部か

## 弥生の大規模集落跡

### 「倭人伝」を裏付け?

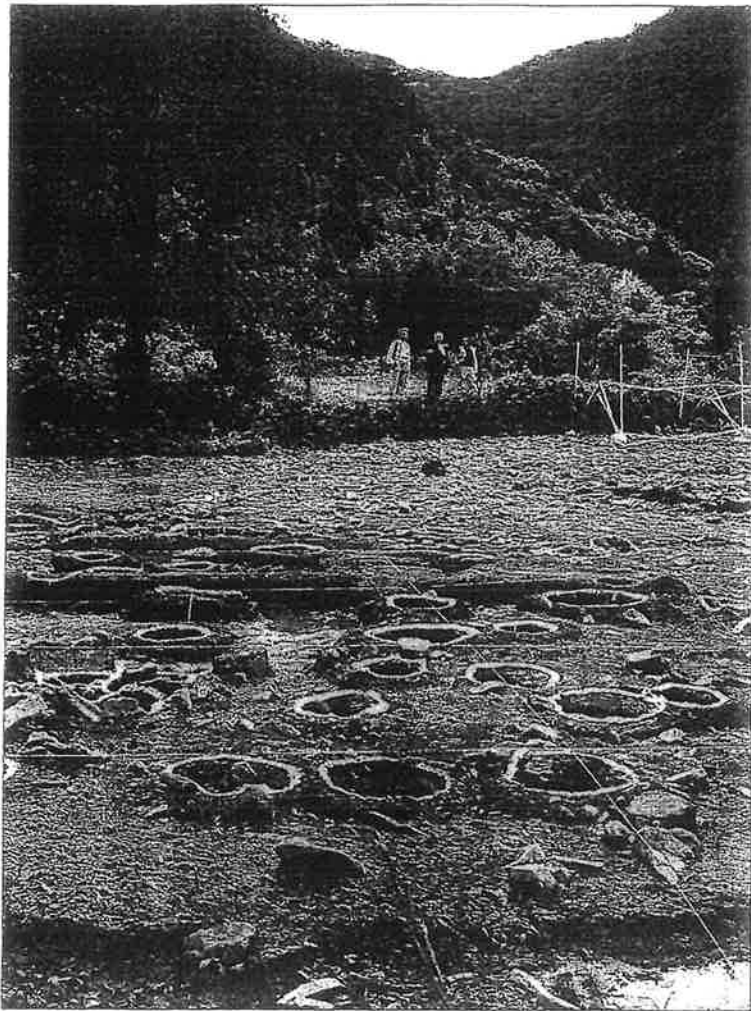
長崎・三根遺跡

中国の史書「魏志倭人伝」に倭国の玄圃口として記された「対馬国」の中心とみられる弥生時代の大規模集落が、長崎県対馬・峰町の三根遺跡山辺区で出土したことが二十七日、同町教委の発掘調査でわかった。対馬で初めての弥生集落跡で、多数の柱穴や竪穴式住居跡が見つかった。倭人伝のクニグニのなかで明確な中心集落跡が確認されているのは、一支国(長崎県志岐)の首都とされる原の辻遺跡だけ。大陸からの先進文化の橋渡しとして弥生文化の成立に大きな役割を果たし、邪馬台国の勢力圏の最前線をも担った「対馬国」の解明に向けて重要な手がかりを得たことになる。

### 朝鮮系土器も出土

三根遺跡は三根湾を間近に立地。同町教委が昨年度「緊急雇用対策事業や町の単に望み、山に囲まれた場所」から今年度にかけて、国の「年度事業として遺跡の調査

を進めている。山辺区は約四万平方メートル、うち調査されたのは七千八百平方メートル。三根遺跡全体では山辺区の十倍以上の範囲に広がっている。また増えつつあるとみられる。これまでに百本以上の柱穴が出土。少なくとも三、四棟の高床式倉庫や二基以上の竪穴式住居跡が確認されており、また



魏志倭人伝記載の「対馬国」との関連が注目される対馬初の弥生集落。



出土土器から、集落は邪馬台国時代である弥生末期期を中心に、弥生前期から古墳時代まで連続していることがわかった。

集落からは合計一万点以上の弥生土器や古墳時代の須恵器や土師器、朝鮮半島・築波郡系の土器や陶質土器が出土しており、当時の盛んな「国際交流」を思わせる。また、長さ約三メートルの極めて珍しい鉄製の約り針や鍛造鉄斧、銅柁用のミニチュア土器などが見つかった。

魏志倭人伝には三十のクニグニの名があるが、位置が確定しているのは対馬国、一支国、末盧国(佐賀県唐津市)、伊都国(福岡県前原市付近)、奴国(同春日市付近)のみ。倭人伝は対馬国の様子を「千余戸あり。良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市結す」と描写している。

対馬中部の三根湾周辺は浅茅湾沿岸と並び青銅器を副葬した首長級の墳墓の密集地で、これらと深い

つながりがあると思われる。森浩一・同志社大名誉教授は「峰町は一番注目していたところだ。倭人伝の情報は、峰町辺りに使者が滞在してその紀行文を書いた可能性が高い」という。同町教委でも「中国からの使者がここに立ち寄ったことが考えられる」とみて、発掘を継続する予定。



# 対馬にまとまった「国」

## 三根遺跡に交易活動ほらふつ 大規模集落跡

解説

魏志倭人伝  
に「山険し

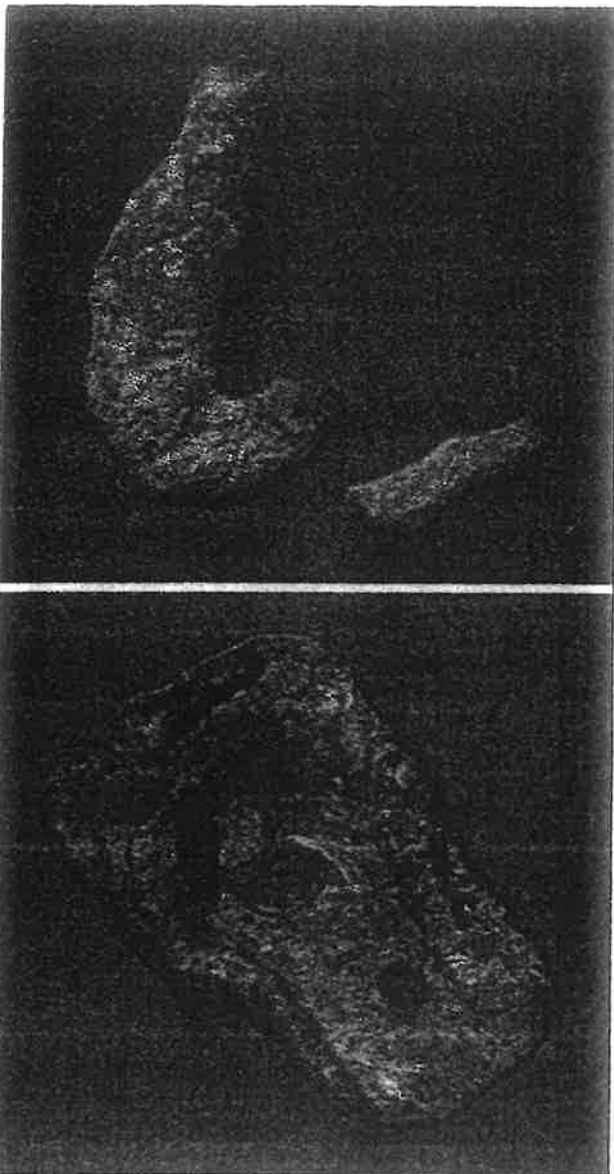
く、深林多く、道路は禽鹿の径のごとし」とあるように、対馬の平野はわずかでも今も集落は浦々に点在する。だからここに巨大集落を想像するのは難しいし、

弥生時代、「国」と呼べるほどのまとまりがあったのかと疑問視する声もあった。が、三根遺跡の出現はその疑問を氷解させることになった。「倭人伝のころはむしろひとつにまとまり、対馬国として安定していたの

ではないか」と森浩一・同志社大名誉教授はいう。比較的恵まれた平野部を持つ三根湾周辺は、ガヤノキ遺跡やサカドウ遺跡、タカマツノダン遺跡といった豊富な副葬品を持つ首長クラスの弥生墳墓が密集し、

弥生初の生活遺構が見つかるならここ、といわれてきた地だ。この集落跡が対馬国の中心集落のひとつならば、倭人伝の情報をもたらした中国人が目にしたのはここだった、と考えるも無理ではない。かつては集落

のすぐ目の前まで海が迫っていたといい、「南北に市糴」（倭人伝）した人々の交易活動さえほらふつさせる。



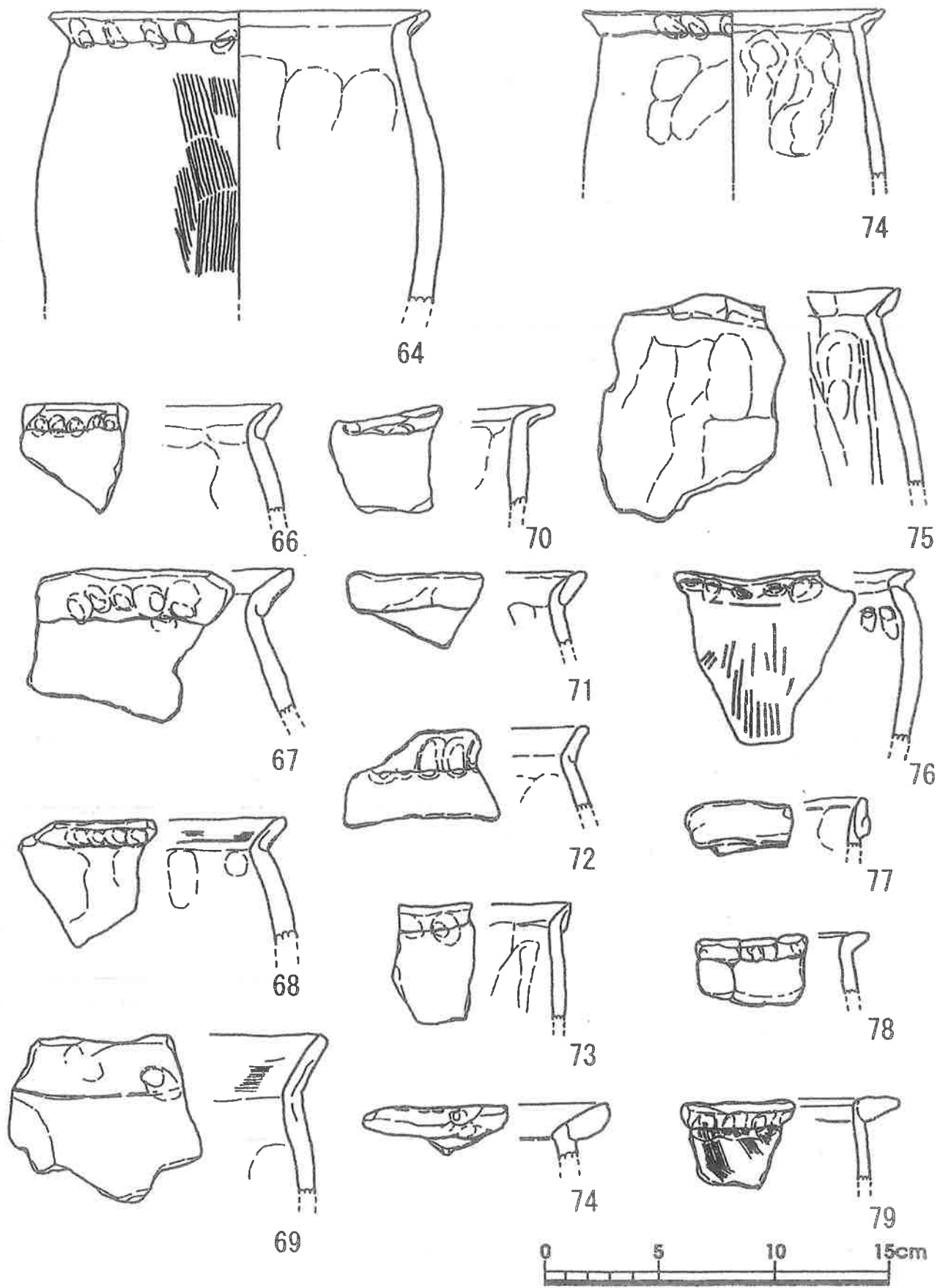
①盛んな漁労活動を示唆する珍しい鉄製の釣り針 ②遺跡から出土した鍛造鉄斧（てっぷ）

朝鮮半島と九州の中間に位置する対馬は、文化的には九州の影響下にありながら朝鮮半島・大陸の影響を受け、独自の思想や価値観を生み出した。弥生の墓には本土にはない舶来の青銅器がたくさん納められている。一方、不思議なことに奴国の工房で造られた大形銅矛が最も多いのも対馬。そこで銅矛は「国境」を守る呪具だったとの説もある。対馬は、先進文化の玄関口であるとともに、邪馬台国を中心とした倭国を海外の脅威から守る前線基地の役割を担っていたらしい。

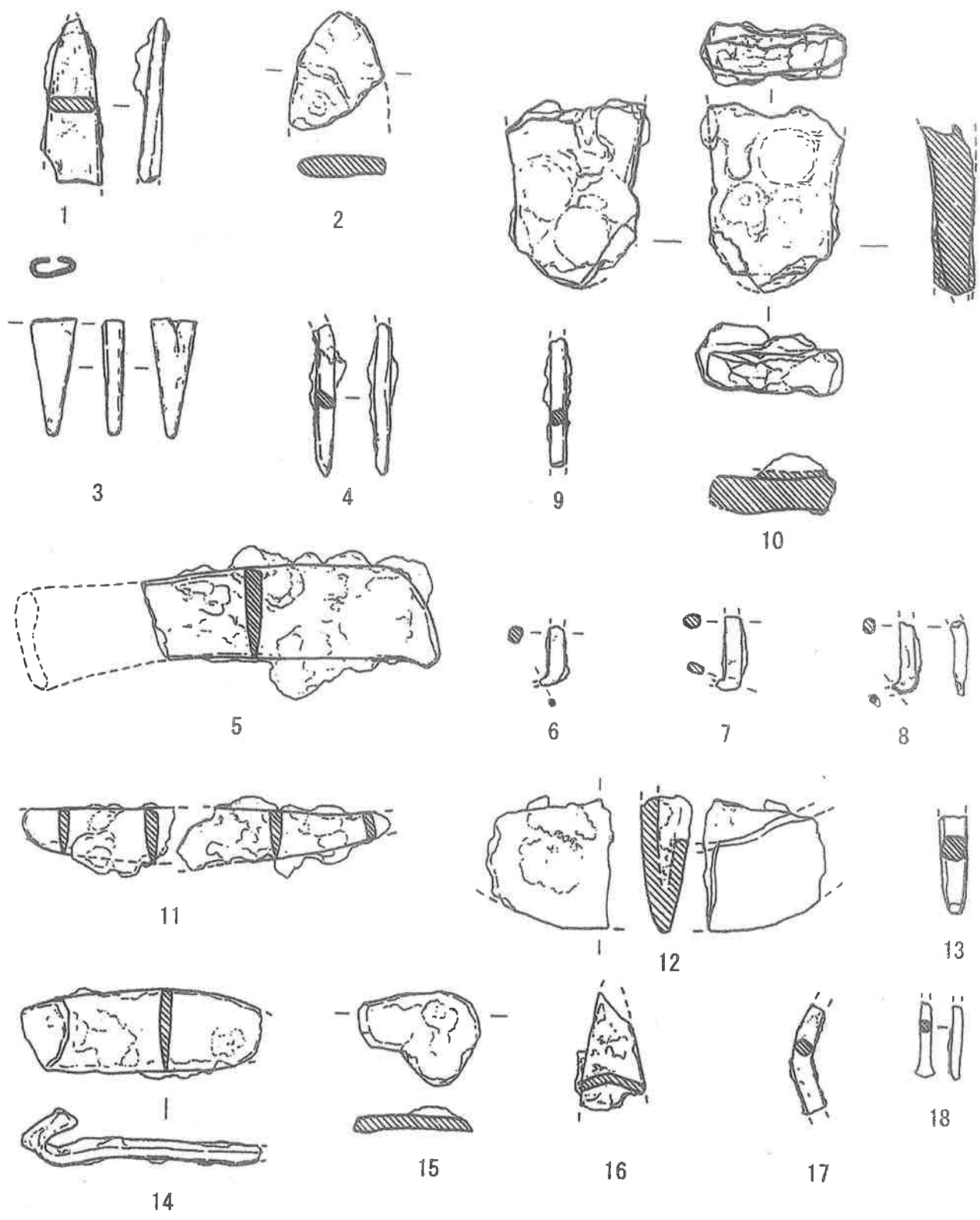
三根遺跡の集落は、東アジア世界と深く交わった弥生のクニグニの実態を知ろうと、貴重な情報を提供してくれるはずだ。

（学芸部・中村 俊介）

『朝日新聞』2000年10月28日付



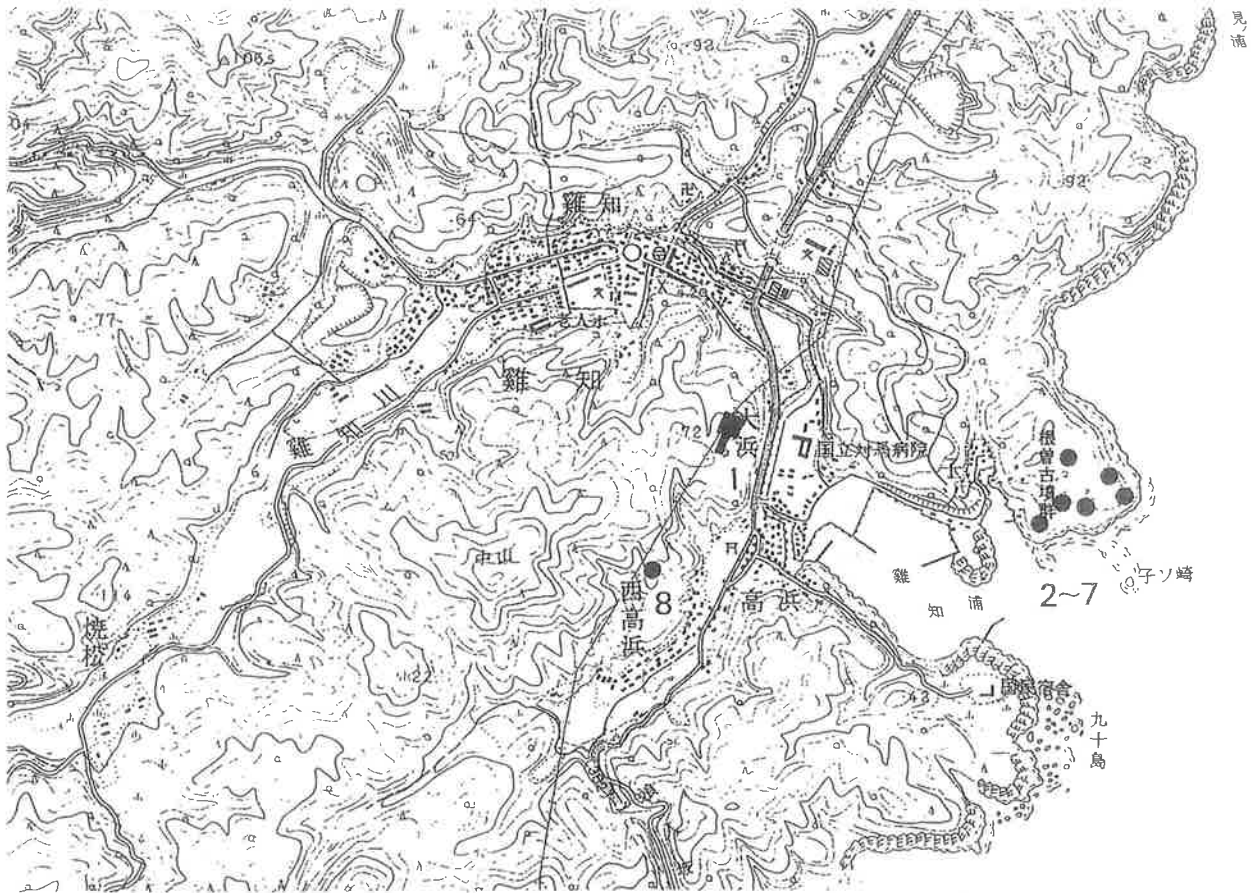
三根遺跡山辺区出土土器  
 미네유적 안베구 출토토기



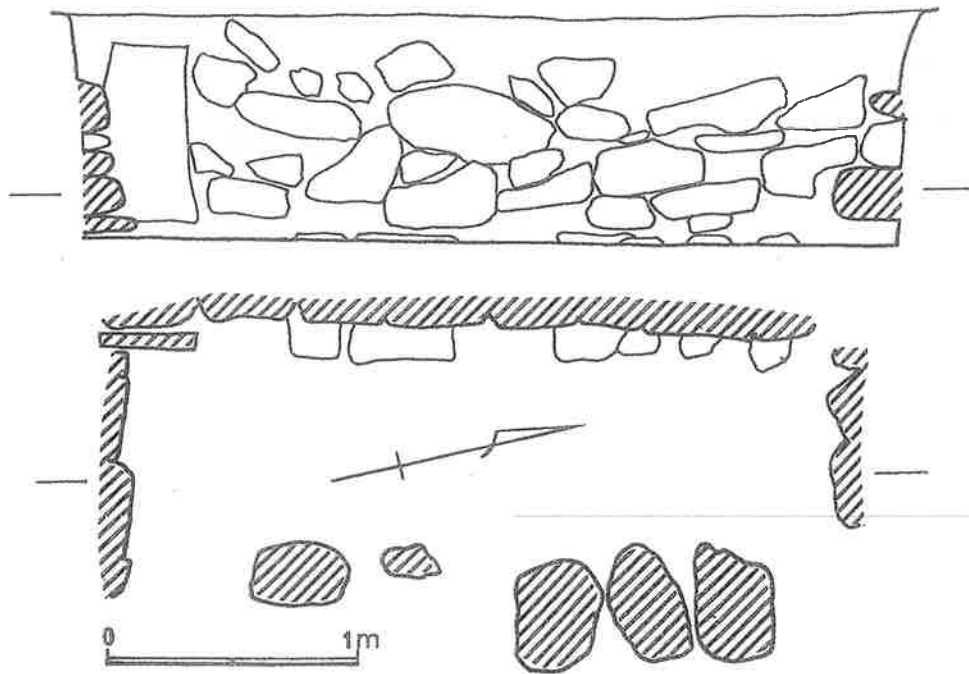
山辺平成12~13年度調査区出土鉄器  
 안배 2000~2001년도 조사구 출토철기

S=1/2  
 S=1/2

長崎県峰町, 2002 『峰町白韓共同遺跡発掘交流事業記録集』



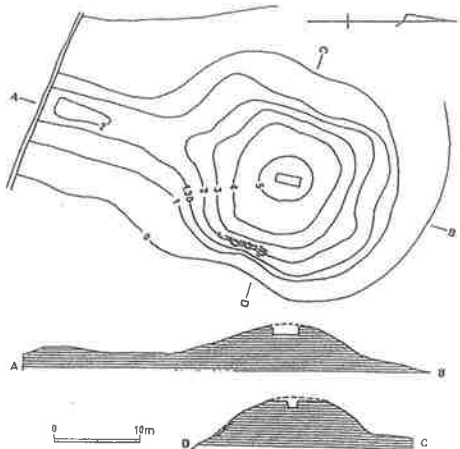
出居塚古墳の位置と周辺地形図



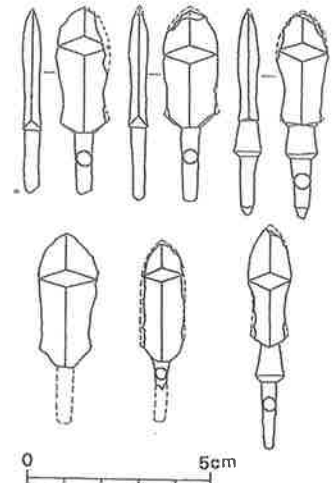
出居塚古墳石室実測図

『対馬の自然と文化』1954より作成

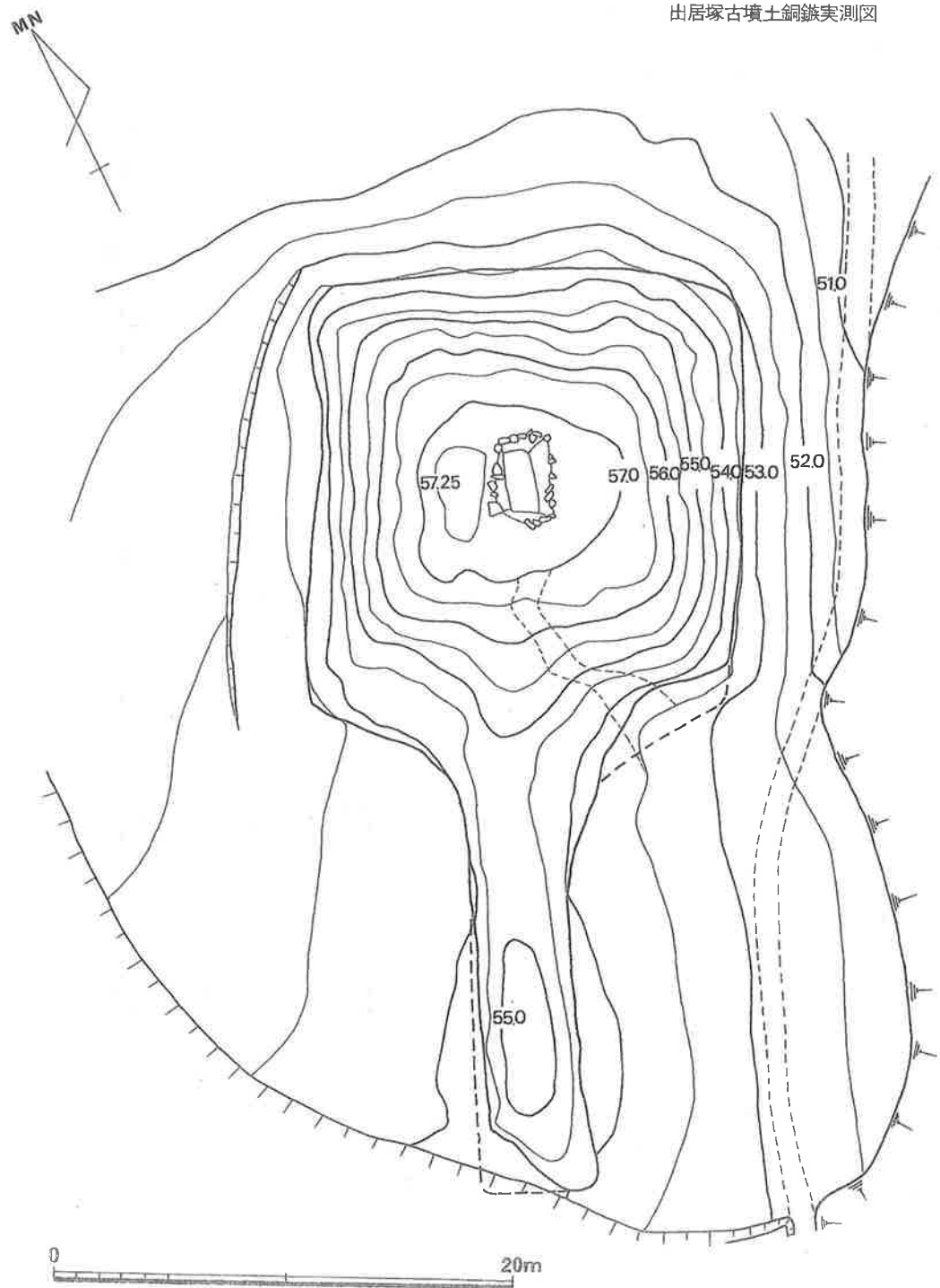
長崎県教育委員会, 1992 『県内古墳詳細分布調査報告書』  
 長崎県文化財調査報告書, 第106集



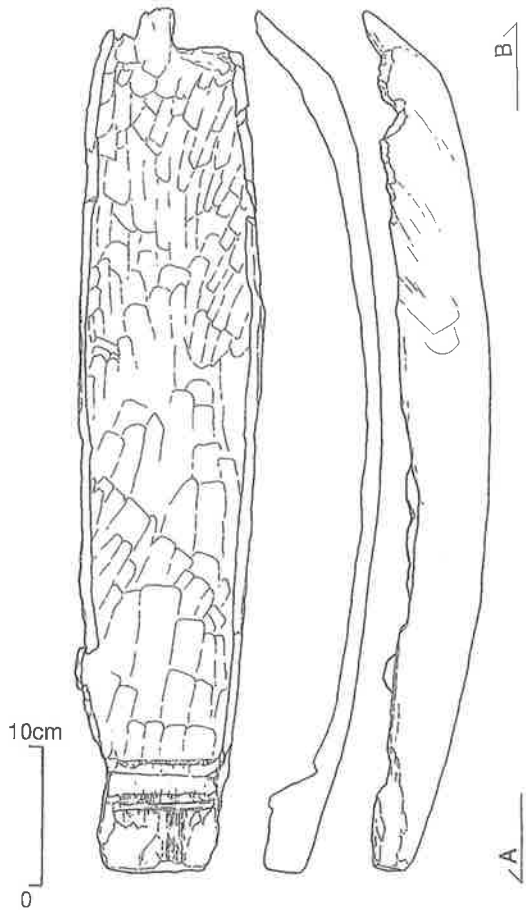
『対馬の自然と文化』1954より作成  
出居塚古墳墳丘実測図



『九州考古学研究』古墳時代篇1979より作成  
出居塚古墳土銅鐵実測図



出居塚古墳墳丘実測図



原の辻遺跡出土 舟形木製品実測図 (1/6)



準構造船の復元想定図

全長約6m程度の船が想定される。  
(下長遺跡準構造船復元想定図より一部改変)

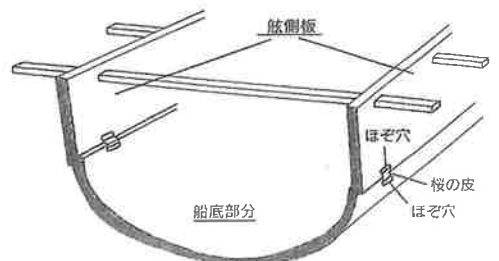


潤地頭給遺跡

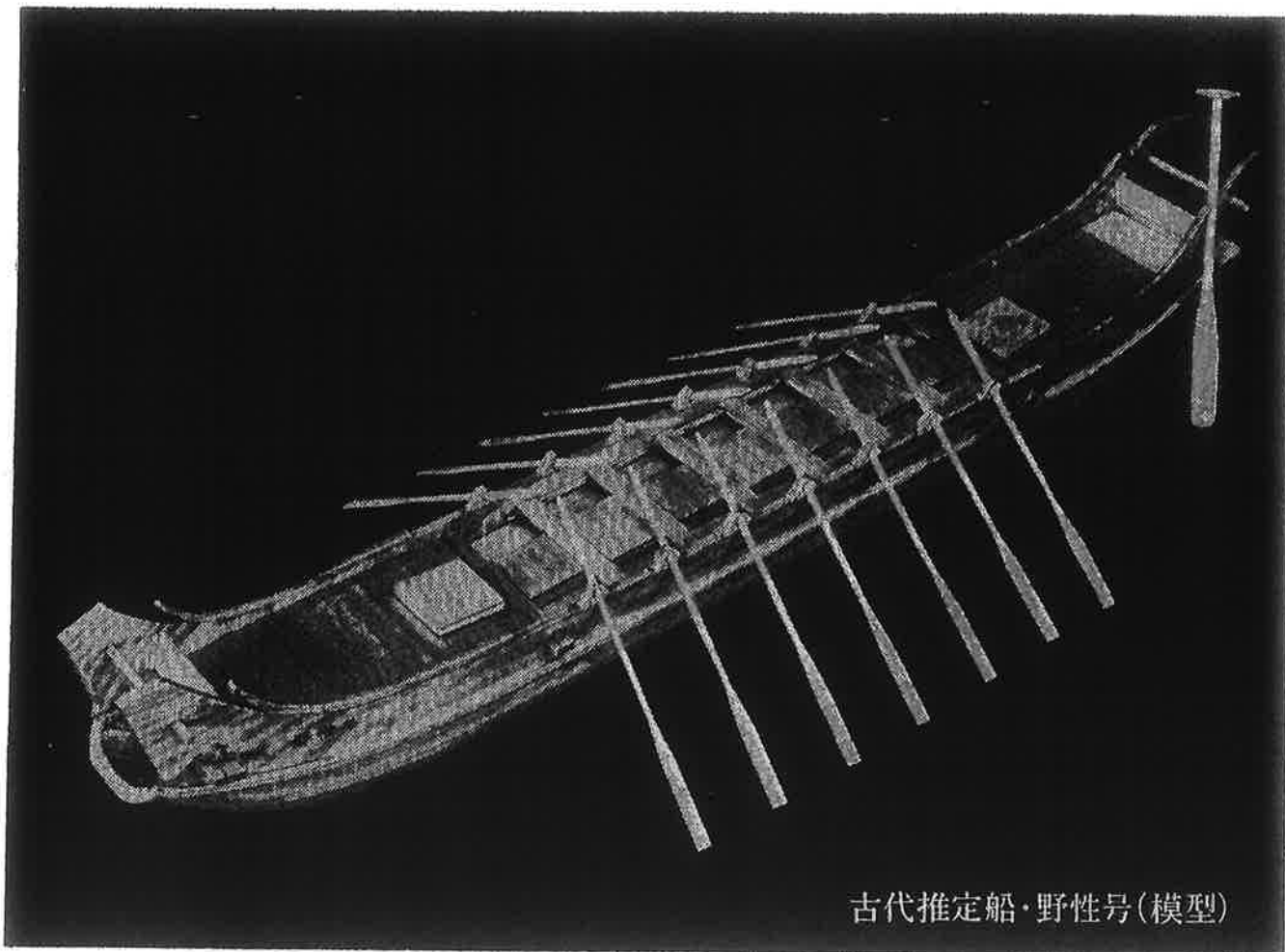
船底部分を横から見たようす  
船底部は木を削り貫いた丸木船状のものであった。

準構造船材

奥が舳先方向で手前が船尾部分。左側の一枚板は舷側板。



準構造船の断面を復元したようす  
(日本財団図書館 船の科学館ものしりシート準構造船断面図より一部改変)



古代推定船・野性号(模型)

使用船

古代推定船(設計—石井謙治)

〈長さ〉 一六メートル五〇センチ

〈幅〉 二メートル二〇センチ

〈材質〉 カナダ松

〈排水量〉 約一三トン

〈総トン数〉 約三・九トン

〈定員〉 約三〇名

伴走船 パイロット船及び母船、各数十トン

